

意見聴取会、県民意識調査等の実施概要

1 宮城の教育振興基本計画策定に関する意見聴取会

1 目的

教育基本法第 17 条第 2 項の規定に基づき、本県教育の振興に関する総合的かつ計画的な推進を図るため、基本的な方針、講ずべき施策の方向性等を示す教育振興基本計画を策定するに当たり、広く県民の意見を聴取し、今後の検討に生かしていくため、県内 7 か所で開催した。

2 地区毎の開催結果

地 区	開催日時	会 場	意見発表者	傍聴者数
大 崎	平成 20 年 7 月 6 日 (日) 10:00 ~ 12:00	宮城県 大崎合同庁舎 大会議室	<ul style="list-style-type: none"> ・加美町立広原小学校 教 諭 中川 美津子 氏 ・色麻中学校 P T A 副会長 佐々木 正彦 氏 ・鹿島台母親クラブ 会 長 石 井 洋 子 氏 ・社団法人おおさき青年会議所 次世代育成委員会副委員長 手 島 祐 弥 氏 ・宮城県地域婦人団体連絡協議会 遠田郡婦人会 副会長 寺尾 登茂代 氏 	25 人
石 巻	平成 20 年 7 月 6 日 (日) 14:00 ~ 16:00	宮城県 石巻合同庁舎 大会議室	<ul style="list-style-type: none"> ・石巻市立渡波中学校 教頭 菱沼 伸一 氏 ・石巻市けやき教室 室長 綿引 雄一 氏 ・石巻養護学校同窓会 会長 阿部 美幸 氏 ・日本製紙株式会社石巻工場 事務部長代理兼総務課長兼教育理事 太田 宗 史 氏 ・東松島市青少年健全育成市民会議 広報部 佐々木 松子 氏 	13 人
仙 南	平成 20 年 7 月 13 日 (日) 10:00 ~ 12:00	村田町中央公民館 大ホール	<ul style="list-style-type: none"> ・柴田町立東船岡小学校 教 諭 綱川 誠 氏 ・柴田町立船岡中学校 教 頭 永山 晋 氏 ・子どもの杜エール 代 表 櫻井 美砂子 氏 ・特定非営利活動法人仙南広域工業会 常務理事 工藤 忠雄 氏 ・大河原管内スポーツ少年団連絡協議会 会 長 村上 利仁 氏 	17 人
仙 台	平成 20 年 7 月 13 日 (日) 14:00 ~ 16:00	宮城県庁行政庁舎 2 階講堂	<ul style="list-style-type: none"> ・名取市立増田小学校 校 長 根 來 英 雄 氏 ・多賀城市社会教育委員 阿 部 豊 子 氏 ・仙台高等学校 校 長 石 井 正 樹 氏 ・高機能広汎性発達障害児親の会 (シエルの会)元会長 菅 野 義 久 氏 ・仙台市子育てふれあいプラザのびすく仙台 館 長 伊 藤 仟 佐 子 氏 ・仙台市スクールガードリーダー 小 幡 昭 夫 氏 	33 人
登 米	平成 20 年 7 月 21 日 (月) 10:00 ~ 12:00	宮城県 登米合同庁舎 大会議室	<ul style="list-style-type: none"> ・登米市立米山西幼稚園 技術主査 星 良 氏 ・登米市立佐沼小学校 校 長 片 倉 敏 明 氏 ・特定非営利活動法人すくすく保育研究所 代表理事 堀 田 菜 菜 江 氏 ・登米市倫理法人会 会 長 伊 藤 俊 郎 氏 ・とよさとマイ・タウンクラブ 会 長 佐 々 木 幸 一 氏 	22 人
気仙沼 ・本 吉	平成 20 年 7 月 21 日 (月) 14:00 ~ 16:00	宮城県 気仙沼合同庁舎 大会議室	<ul style="list-style-type: none"> ・本吉町立津谷幼稚園 園 長 三 浦 三 枝 子 氏 ・本吉町立津谷中学校 教 諭 菅 原 定 志 氏 ・学校法人畠山学園東陵高等学校 副校長 吉 田 俊 雄 氏 ・スクールカウンセラー 星 美 保 氏 ・気仙沼市青少年育成協議会 会 長 岡 本 寛 氏 	13 人
栗 原	平成 20 年 7 月 27 日 (日) 10:00 ~ 12:00	宮城県 栗原合同庁舎 第 1 会議室	<ul style="list-style-type: none"> ・栗原市 P T A 連 合 会 会 長 石 川 和 彦 氏 ・栗原市立若柳中学校 校 長 千 田 哲 氏 ・栗原市こども会育成連合会 会 長 後 藤 哲 弘 氏 ・栗原市スポーツ少年団 副 本 部 長 鹿 野 有 三 氏 ・栗原市社会教育委員 菅 原 敏 元 氏 	13 人

2 宮城の教育についての意見募集

1 募集目的

教育基本法第17条第2項の規定に基づき、本県教育の振興に関する総合的かつ計画的な推進を図るため、基本的な方針、講ずべき施策の方向性等を示す教育振興基本計画を策定するに当たり、広く県民の意見を募集することを目的として実施するもの。

2 募集期間

平成20年7月1日（火）～平成20年7月31日（木）

3 募集意見

募集する意見は、本県の教育振興基本計画を策定するに当たり、その参考となる教育全般に関するものとする。

4 意見提出者

意見を提出できる者は宮城県内に住所を有する者とする。

5 意見の提出方法

意見は、郵便、ファクシミリ、電子メール、直接持参により提出できるものとし、様式は任意とする。

6 応募数

42件（内訳：郵便19件、ファクシミリ16件、電子メール7件）

教育振興基本計画策定に係る県民意見等の概要

施策体系		キーワード	意見聴取会での意見概要	一般意見募集	
全体	社会全体		<ul style="list-style-type: none"> 夢を壊すサンタクロースの真相暴露の放送や、夜中までやっているバラエティー番組、メールやネットが自由に出来る携帯電話をそのまま与えている父母等々、社会の姿勢に問題も多い。社会全体で子どものことを考えることが大切である。 		
	教育の目標		<ul style="list-style-type: none"> 学校教育の目指すところは、社会の中で自立できるように、またそのことを意識できるように育成すること。 社会を支え、行動できる人間に成ることが大切である。 人材を育てるとしてではなく、主権者たる国民に育てていくという視点が必要だ。 		
	計画づくり		<ul style="list-style-type: none"> 「命の大切さ」「学ぶことの大切さ」を計画の柱としてほしい。 計画の策定では、項目を全部埋めて総花的なもので終わりとするのではなく、全体的に見て、宮城県は特徴のある教育だな、と分かるように策定していただきたい。 自ら考え行動する人を育成することが大事である。これを継続するには、同じ年配者がそのまま教えていくのではなく、育っていった人がまた下の人を育てていくというサイクルを作ることが大事だ。自ら考え、行動する人間の教育につながる教育振興基本計画を策定していただきたい。 健全な子どもの育成のために、これまで行ってきた事業が本当に必要なのか、必要でないことは見直していく勇気も大事である。 	<ul style="list-style-type: none"> これまでの教育政策について、反省・総括の議論をし、そこから計画を策定するべき。慎重に行ってほしい 地域の教育力を信頼した教育計画を。 人材育成ではなく、人間を人間たらしめる計画にしてほしい。 市町村の教育費を増額するよう数値目標を盛り込むべき 多くの市民の声を聞き、共に語り合い、良い教育環境を皆で作りたい。 	
学校教育の充実	1学力向上と適正な進路指導の推進	学力	<ul style="list-style-type: none"> 学力については、しっかりと取り組まなければならない重要な課題である。 小中学校では基礎学力向上にも力を入れるべきである。学んだ内容は常識、知識として大人になっても「確かな学力」として残るはずである。 全国学力テストの結果を見ると、宮城県は小中学校全て平均以下と、良くないデータが揃ってしまうが、その辺りの底上げは基本的に大事。 最も大事なものは基本となる能力であり、基礎学力だと思う。これを社会全体で子どもに付けていこうということであろう。 学力向上に図書館は欠かせない。 「ゆとり教育」の十分な検証がないままに、学力向上を推し進めようとしているが、このことは学校現場に混乱を招かないか疑問 学力向上熱、競争意識が格差を生んでいる。 前向きな学力社会だけを作っている。 	<ul style="list-style-type: none"> 飛び級や応用問題が出来るようにするなど出来る生徒をのばす。 学力を外部指導者に頼るのはどうかと思う。 小学校の教頭・教務が専科授業担当を。 宿題を無くすべきである。家庭で、読書の時間や運動の時間不得意科目を復習する時間を確保するべきである。 文部科学省の全国学力・学習状況調査への参加を中止すべき 	
		学ぶ意欲	<ul style="list-style-type: none"> 子どもが望めば、何でも与える時代になってしまった。「子どもに教育だけは受けさせよう」と言っていた時代が懐かしく感じる。勉強が大事だという考えは、親にも浸透させる必要がある。 部活に過熱することない文武両道、学ぶことの大切さを意識することが必要である。 		
		教員の指導力	<ul style="list-style-type: none"> 学力向上策で一番の鍵を握るのは「教師の指導力」であると考えている。 	<ul style="list-style-type: none"> 全ての子どもが“わかる”学びの保障 	
		小中連携	<ul style="list-style-type: none"> 小中学校の先生がお互いにつながりを持ち、コミュニケーションを取ることが大事である。 小中学校の教員が、学習の様子や定着状況を互いに確認し合うことができれば、小学校での学習を中学校で発展させ、学力向上につなげられる。 「不登校問題」の解決と「学力の向上」を目指していくために、小学校と中学校のスムーズな接続、連携が非常に大切になる。小学校・中学校が共同した予防・開発的な取組が今後さらに求められ 小学校、中学校の指導の独自性も大事だが、一貫性も大事である。 小学校、中学校の教育が一貫していると、親密で安心感、一体感がある。人間関係の構築にもつながる。 		
		2キャリア教育の充実	ものづくり	<ul style="list-style-type: none"> 宮城は、昔から米を中心とした農業、日本でも有数の漁港を持つ水産業・加工業、その他の製造業がさかんで、ものづくり大国。これを担う人材を育成し続けることが、今後10年に亘る教育振興基本計画の根幹となるべきことである。 ものづくりは、人づくりである。学校、企業、行政が一体となった「ものづくりの教育環境」を創ることが重要である。 子ども達が「ものをつくる楽しさや技術の大切さ」を学んでもらえる“場づくり”と、先生方のレベル向上を図る“場づくり”として「ものづくりの実技訓練や実践教育」を行っていただき子ども達に指導していただきたい。 企業がものづくり人材教育の一環として、学校と連携を図り、実技訓練やインターンシップを行っていくという動きもあるので、以上のことが教育振興基本計画に反映されることを切望する。 実際にその業に従事する農協、漁協、工場等と連携を図り、より実践的な授業を行うこと、時代の流れにマッチしたカリキュラム作りが重要になってくる。農業、水産業、製造業を担う人材に必要なものは何か、現場の声を聞き、教育内容の充実を図るべきである。 	
		キャリア教育	<ul style="list-style-type: none"> 社会性に富み、コミュニケーション能力を有する人材を育成するため、人間力の醸成に力を入れるべきである。 中1ギャップ、ニート・フリーター問題に対しては、キャリア教育を強力に推進すべき。 自分の生涯をどのようにより良く生きるかという意味での「キャリア教育」を学校教育の中で位置づけ、卒業後の進路の在り方も指導することが大切である。 社会の一員としての自覚をもった子ども達に育てもらうためには、学力の向上も必要だが、その前提に、夢や希望をもち、その夢の実現のために、自分のあり方や生き方を見つめ、考え、自己実現を目指すという「心の教育」が最も必要。 進路指導を重視し、特に中学校の先生には、子ども達の適性や隠れた能力を引き出す教育をしてほしい。 		
		3心の教育の充実	心の教育・規範意識	<ul style="list-style-type: none"> 子ども達の心を育てる指導については、いじめ、不登校、規範意識の低下、基本的な生活習慣の乱れなど様々な要素が絡んでいる。 	

教育振興基本計画策定に係る県民意見等の概要

施策体系	キーワード	意見聴取会での意見概要	一般意見募集
		<ul style="list-style-type: none"> 子ども達の「心の教育」の充実のため、学校でやるべきことと、家庭でやるべきことを明確にし、あり方を再考していかなければならない。 心の教育や体力に関する教育が少し置き去りにされていると感じる。 学力は大事である。しかし、学校現場が学力向上だけにシフトしてしまうのではなく、豊かな人間性を育てることを重視しなくてはならない。社会性と自立心を育てていくことが大事である。家庭、地域の役割が大きい。しかし、学校の中でも、社会性の育成、自立心の育成をもっと重視すべきである。義務教育9年間で、将来に夢を馳せる健全な子ども達を育てることが必要である。 人間同士の信頼関係を築くことを学習できる場が必要である。 ガキ大将がいなくなった。規範意識が薄れている。 規範意識や道徳心は、周りの大人が良いことは認め、悪いときには叱る、というように愛情を持って関わっていくことで育まれていく。 豊かな心や寛容な心を育てるために、音楽、図画工作が重要な教科であり、もっと重点的に行って欲しい。 	
	体験	<ul style="list-style-type: none"> 思うようにならない経験、競争の中で負ける体験、我慢しなければならない体験、がんばる体験を意図的に盛り込んでいくことが、生きる力、たくましさ育てるのに不可欠である。 子ども達が、体験から学ぶ機会が狭められている。 少子化の影響により同年代の子どもと関わり、社会性を育む体験が少なくなっている。 人との関わり方を身に付けること、直接体験することを重視して学ばせたい。失敗体験も必要である。 豊かな心を育てることが何よりも大事である。子ども時代に子どもらしい体験を欠いて大人になってしまっている。 子どもは失敗から学ぶことが大切である。 変な平等主義、差をつけない教育が行われていることが気になる。個々人の違いを認識し、多少の挫折感は少しずつ与えていく必要がある。小さくても、世の中では絶対排除できない個々人ごとの差を少しずつでも味わえる、感じられる施策も必要である。 	
	自己肯定力	<ul style="list-style-type: none"> 自己肯定感が、規範意識や自分を律する心につながっていくのである。 将来に夢や希望を持たない「自己肯定力が欠如している」子どもが、ネットの世界にのめり込んでいく。 自分自身を大切に思う気持ちは、どの子どもにも必ず必要なことである。自尊心を育てることは、相手を敬う気持ちを育てる事でもあり、心を豊かにし、教育の向上に結びついていくものである。このような教育の在り方を検討願いたい。 子どもたちが達成感を持つことがとても大事である。 親以外の人から褒められることは、子どもがとても喜ぶ。親同士仲良くやっていくことも教育力を高めることにつながるのではないか。 	
4一人一人を大切に した生徒指導の 推進	不登校対策	<ul style="list-style-type: none"> 担任がどう対応して良いか分からない、保護者との信頼関係が築けない、面会を断られて、なすすべがない、という状況も見られる。不登校生徒の状態を適切に見立て、学校や家庭に積極的、能動的に働きかけ、不登校問題の改善を進める機関が必要である。県内数地域に不登校支援センターの設置を望む。 不登校センター職員として、指導員、カウンセラー、家庭訪問指導員。これに、ボランティア学生、協力する医師が加わると良い。不登校支援センターが、行政機関や学校と連携し、実態を把握し、学校や保護者及び本人に働きかけ、不登校センターへ通わせたり、家庭を支援し学校復帰の手助けをする。再登校の際にも、サポートチームを作って援助し、関係機関のネットワークも作る事ができ 各適応指導教室の充実について県として支援をして欲しい。不登校支援センターの構想も、県独自でなくとも、適応指導教室を設置している教育委員会との連携を図ることにより、費用の問題が緩和されたり、より具体的な対策が展開されると考えている。 秋田県と北秋田市教育委員会では、不登校児童生徒支援のための宿泊研修施設を作り、常駐する職員を置いた。宮城県でも参考とし、前向きな不登校対策を実施すべきである。 年代の違う子ども達の交流がはじめをなくし、不登校を改善するために必要なこと。 	
	問題行動	<ul style="list-style-type: none"> 子供の問題に対しては、福祉・警察・児童相談所・学校・医療などの機関が連携していかなければならない。 全ての子どもを平等に扱うことから、能力のある子どもから不平不満が出る。一人の子どもが初期の癌のようなもので、初期の段階で処置しないと、体中に広がって大変なことになる。問題行動のある子どもへの関わり方に課題を感じる。 	
	忍耐力	<ul style="list-style-type: none"> 忍耐強さを少年期に身に付けさせる。 	
5体育・健康教育の 充実	食育・スポーツ	<ul style="list-style-type: none"> 栄養教諭を宮城県全体に配属して、食育につなげていただきたい。 スポーツの中でコミュニケーションを磨いていく必要があると特に感じる。 	
6安全教育・安全管 理の推進	学校安全	<ul style="list-style-type: none"> 親としては、学校は安心して子どもを送り出せる場所であって欲しい。 全職員が危機管理意識を高め、学校の安全のための方法を共有することが重要である。 「生徒の安全確保と保護者・学校間の情報伝達方法の確立」が喫緊の課題であるとする。 地域全体を安全なものにしていく必要がある。 	
7高校教育改革の 推進	特色ある学校等	<ul style="list-style-type: none"> ものづくり人材の育成のため、専門高校では、その道の専門技量、職業観を集中的に教育することが重要である。 専門高校の授業風景を、小中学校の保護者や教師に見学させてほしい。「百聞は一見にしかず」である。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校の学力レベルを平均化する必要はなく、学校によって特徴があるべき 中高一貫校などの取組の、影の部分、起こりうる問題への対処意識が希薄。
	定時制高校	<ul style="list-style-type: none"> 科目履修生制度を定時制にも導入し、高校生と40代、50代、60代の大人と一緒に学ぶことができるようになり、自然な形で地域との協働によって生徒の自立心を育てることにつながる。 	

教育振興基本計画策定に係る県民意見等の概要

施策体系	キーワード	意見聴取会での意見概要	一般意見募集
		・定時制高校は、勉強したい人がいけるところであり、悪の養成所のような状態になっているのなら、一度排除してはどうか。	
	私立高校	・公立・私立の収容定員比率を気仙沼地区にも導入するなどの具体的な取組が必要である。教育振興基本計画の策定に当たり、気仙沼地区における公立高等学校定員の適正化を検討いただき、私学も含めた全高等学校の定員確保に配慮いただきたい。	・私学助成の大幅拡大 ・私学の授業料軽減補助の拡充 ・私学の運営費補助は、単価方式から私立高校の教育費方式の1/2を実現 ・私学の施設助成を新設
	男女共学化		・県立高校一律共学化に反対 ・男女の共生を実践の中で学ばせることをしっかりと表すべき
	全県一学区制		・全県一学区の凍結 ・全県一学区は奨学金制度や交通費補助制度をつくってから実施すべき
8高等学校入学者選抜の改善	入試制度	・推薦入試制度についても考えていく必要がある。	・高校授業料の無償化と全入の実施
9教職員定数の改善	教員増員	・教員が生徒と向き合う十分な時間を確保するため、少人数加配、特別支援補助員の配置などさらなる支援を望む。 ・教員を増やす必要がある。	・教員を学級数に応じて、5名を上限に加配する。 ・教員の定数増
10開かれた学校づくりの推進	開かれた学校	・開かれた学校と言いながら、実際には閉鎖されている。 ・開かれた学校づくりを望む。そこに相互交流が生まれる。それがないと、親たちは井戸端会議で学校の悪い情報ばかり耳にしてしまう。 ・何かしようとする、学校が壁を作ることがあるように感じている。	
	学校情報	・学校側からの情報提供、学校への思いの相互交流を繰り返すことが大事だと考えている。 ・「鹿商だより」を回覧で地域に回しているが、義務教育でもこのようなことを行っていただきたい。 ・学校の行事予定など、ホームページなどで公開していただくと、事業の企画や活動がしやすくなる。 ・「学校」は、絶えず学校だよりやホームページなどで情報を公開する。	
	学校経営	・学校はもっと外へ出て行き、地域や家庭の協力を見直し、子ども達を見守っていく体制を作らなければならない。 ・不登校児童が出現することは、学校への何らかのサイン、警告である。学級経営、学年経営、学校経営に問題はないのか、早急に点検する必要がある。 ・栗原では、子どもが減り、これに伴い職員定数が減り、部活動は顧問の配当や、安全管理を含め、危機的な状況にある。 ・「学校」は、「目標達成型の学校経営」を進め、教師と子ども、家庭が目標を共有し、一体となって取り組むために、「学校マニフェスト」を作成する。 ・学校では、一人の先生が問題を抱えることがないようにしていただきたい。担任に任せておけば良いということではなく、全員で共有することが大事である。 ・「宮城型コミュニティ・スクール」を広げていくことを提案したい。	・教員の意見反映の仕組み作り
11特別支援教育の充実	障害児童生徒対策	・自閉症の人はこだわりが強く、親でも対応はなかなか大変である。緊急時に備え、これからも皆でサポートして欲しい。 ・普通学校に通う障害を持つ子どものサポートに、これからも取り組んでいただきたい。 ・小・中学校で展開している特別支援教育、通級指導教室に準ずるシステムを就学前の保育園、幼稚園に作る必要がある。就学後の学校側の対応も容易になる。 ・障害を持っている子ども達にとっての平等とは、その子にとって一番合った教育環境を整備し支援すること。時には個別、時には一斉授業など、その場に適した授業形態を柔軟に取り入れる環境が必要である。その子に合った環境を整えて教育を行うことが本当の意味での教育の平等である。	・特別支援教育支援員を特別支援学級に配置する。 ・特別支援教育支援員の全自治体配置 ・障害児学級の定員を4名に
	相談サポート体制	・子どもの将来の社会的自立を図る観点から、障害のある子ども本人や保護者の教育相談や進路、就労相談の在り方についても検討願いたい。 ・高校、大学でこそ軽度発達障害を持っている子ども達へのメンタル的なサポートが必要である。	
	就労支援	・就労支援センターを早期に立ち上げることを望む。	
	共に学ぶ教育	・「どんなに重い障害があっても、地域の学校で学べる」という、平成17年に策定された宮城の障害児教育将来構想の理念を、是非盛り込んでいただきたい。 ・小さい時から障害を持つ子に接していると、優しい気持ちを持ち、感受性が豊かになる。集団で生活しないことには、人の痛みも分からない。 ・保護者と学校が協働して新しい特別支援教育を創造していく取組を具体化するよう、計画策定の中で議論されたい。 ・障害を持つ子ども達が地域に戻って生活するためには、子ども会が重要である。 ・地域で「共に学ぶ」教育は必要だ。お互いの違いを認めて、どの子にとっても自立につながると実感している。	
12学校施設・設備の整備促進、充実	施設整備	・人づくりを考えた時、学校教育には図書館、本は不可欠である。宮城の将来は図書室からといっても過言ではない。	
13幼児教育の充実	幼児教育	・家庭生活の都市化や地域社会での関わりの希薄化など、登米市でも幼児を取り巻く生活環境の変化の傾向 ・幼児に対する過保護や過干渉が、自立心・自主性・人と関わる力を奪っている。 ・幼児たちに生活習慣の乱れが多く見られる。また、友達と関わる力も弱く、コミュニケーション能力不足が見られ、一人で遊ぶことを好む幼児、友達をたたいたり押ししたりしてしまう幼児がいる。 ・幼児期の教育が特に重要である。	

教育振興基本計画策定に係る県民意見等の概要

施策体系	キーワード	意見聴取会での意見概要	一般意見募集	
社会教育の充実		<ul style="list-style-type: none"> ・幼児教育の段階から、遊びや集団活動の中で、対人関係を学ばせ、がまん強さや目標に向かって立ち向かっていく力を育てることが大事である。 ・幼児期の群れ遊びを通じて、仲間との協調性、ルールの大切さ、自然との共生、命の尊さなどを肌で感じさせ、本当の「生きる力」を身に付けさせたい。 ・家庭に対して園児の姿を正確に伝えるとともに、しつけを促すことが必要。 		
		<ul style="list-style-type: none"> ・幼稚園も、現在の社会や幼児の状況を踏まえ、時間外の保育、預かり保育もしっかり整備していくことが大切である。 ・幼稚園などの幼児教育への金銭的な補助、保護者の教育費の負担軽減を計画に盛り込んでいただきたい。 		
		<ul style="list-style-type: none"> ・小学校との連携では、大人より同じ子どもということで幼児はさらに興味・関心をもって積極的に関わるようになるのではないかと。 ・子ども達が豊かな幼児期を過ごすためには、公立・私立・幼稚園・保育所の垣根を越えて、様々な立場の方々が知恵を出し合って、より良い環境作りを進める「連携」が大切である。 		
	14教員採用選考の改善	教員採用		<ul style="list-style-type: none"> ・教員採用試験を公明正大にしてほしい。 ・新任教員は2年間を試用期間とし、その後成果を検討して合否を決める。 ・女性教員の採用を多くする。 ・民間企業の経験者を採用してほしい。 ・民間人校長の登用廃止 ・民間人校長の採用促進 ・新卒者の採用による若者の雇用促進
	15教職員の研修の充実強化と実践的研究の推進	資質向上	<ul style="list-style-type: none"> ・学校経営の基本は不易と流行である。学校経営の視点として魅力ある教師を作ること。 ・人間として、大人として、人としての生き方の見本を示してくれる教師が子ども達一人一人としっかりと関わることが教育の最も大切なこと。 ・先生の資質の向上について、使命感や職業観が先生に限らず、今の若い人に欠けている。 ・教師と子どもの信頼関係の基本は「授業づくり」であり、教員の資質向上が不可欠である。このために、校長の強いリーダーシップが必要である。 ・学校には「分かる授業」を大いにやって欲しい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教師の怠慢、勉強不足で生徒が勉強への熱意、希望をなくしている。夏休み・冬休みに先生のテストを実施すべき。 ・先生自身の質を上げてほしい
		学校外研修の必要性	<ul style="list-style-type: none"> ・子ども達に生きる力をつけるためには、先生方が見聞を広め、社会性を身に付けることが必要である。 ・教員が学校外の世界をもっと知る必要がある。企業と学校が教育について意見交換を行うのは有意義だと考える。単独の学校、企業ではなくもう少し広げた形で相互に交流ができるとさらに良い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教員が保護者以外の大人とコミュニケーションする場の設定 ・出張、研修を授業時間外にする。
		校種間研修	<ul style="list-style-type: none"> ・小中教員の人事交流も大事だが、小学校の教員と中学校の教員が小学校・中学校でどう教育が行われているのを見る研修等が必要。 ・中学校の先生は、養護学校に行くと先生達が勉強するということも必要だと思うので、そのような機会を増やして欲しい。 	
	16教員人事の改善充実	教員人事	<ul style="list-style-type: none"> ・地域との連携を深めるために、地元出身の学校の先生の比率を高める、子育てしている一定期間は単身赴任をやめさせることも考えるべき。 ・教員の多忙化問題、「教員が子ども一人ひとりに向き合う環境づくり」は、県教委として条件整備が必要である。 ・社会性、人間力の乏しい大人の対応を教師に押しつけるのは酷である。先生達に教育に専念できる環境を提供するべきである。 ・子ども達が笑顔になれるよう、教員が良い授業する条件整備をしていただきたい。 ・現場の教員に笑顔が見られない。教員に権限を与えていくこと、PTAが先生を支えていくことがこれからは大事である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校の英語教育は、外国人を複数採用し、外国語担当教諭を定員外で採用すべき。 ・自己評価の強制提出制度の廃止 ・人事管理や給与格差による教師間競争の回避 ・教員は50歳までは学級担任をする。 ・名物校長、名物教師のいる学校づくり ・音楽・理科の専科教員の配置 ・1学級の生徒数(30人・35人)を減らす。 ・8時間以内で仕事をし、仕事を持ち帰らないようにする。 ・教員の多忙化の解消 ・子どもの能力を信じて丁寧に教師が向き合える仕組み作り
		職員勤務		
		学校教育・社会教育の人事交流	<ul style="list-style-type: none"> ・学校教育と社会教育の人事交流を積極的にしていただきたい。 	
17教職員の福利厚生者の充実		超過勤務	<ul style="list-style-type: none"> ・教員の大幅な超過勤務の実態がある。 	
社会教育の充実	18青少年活動支援の充実		<ul style="list-style-type: none"> ・青年文化祭や青年体育大会などの青年教育への支援強化 	
	19家庭教育支援の充実	家庭教育	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもと共に、親、大人も常に学び続けることが大切だと考える。教育の原点は家庭である。学校で過ごす時間も長い、衣・食・住や生きる力を学ばせる場は家庭であり、そこで父も母も常に学んでいく姿勢を持つことが大切だ。 ・家庭の中に教育に対する理解を仕掛ける必要がある。 ・親や家庭教育が子育ての基盤であるので、家庭教育がきちんとされるべきである。 ・家庭によっては、学校にも、地域にも入ってこようとせず、うまく呼び込む働きかけが必要である。 ・子ども達の問題は、まず家庭にある。 ・子どもとの関わりやしつけの事などを話したり、考えたり出来る家庭教育事業の充実を望む。 ・家庭教育が全ての教育の根幹である。学校教育中心の施策から家庭教育や地域教育を含めた特徴ある施策を考えてほしい。 ・学校、家庭、地域のうち、重点はどこかといったら家庭であり、親子関係である。 ・ものづくりに限らず、スポーツなど、良い親子関係を作るための場づくりが必要である。 	

教育振興基本計画策定に係る県民意見等の概要

施策体系	キーワード	意見聴取会での意見概要	一般意見募集
		<p>「家庭」は、基本的な生活習慣や学習習慣を身に付ける取組や、将来について語り合うことなど、親と子どもが正面から向き合うことを大切にする。</p> <ul style="list-style-type: none"> 言葉の持つ意味、相手の気持ちを早いうちから理解できるような関わりを家族で積み重ねていくことがとても大事である。 教育をするのは、基本的には親、家庭だということをはっきり強調したほうが具体性がある。 <p>親教育</p> <ul style="list-style-type: none"> 普通の感覚で話しても理解できない親なども少なくない。 母親は、有名な大学を出ていて教養が高いが、常識がない場合がやや多く見られる。 様々な体験や、家での躰を通じて常識が身に付くものだと思う。このような人達は、既に親になってしまっている。このような人達の教育は、早急にやらなければならない。 教師の指導力、保護者・地域の問題など、子ども達よりも、むしろ大人の側に問題があると感じる。 親に対する教育も確かに必要 保護者(地域の大人)と教員の資質向上が必要である。 未来の親になるために、赤ちゃんとのふれあいの体験をさせて欲しい。世話をすることを通じて、赤ちゃんは愛される存在であると言うことや、自分も大切に育てられたということを感じ取ることができ、子ども達の心に残る体験になる。 <p>保護者</p> <ul style="list-style-type: none"> PTAでも人間関係が年々希薄になっている。参加したくなければ参加しない。共に歩むということが少なくなっている。 児童がシグナルを発しているも、家庭の中に受け止めてやるべき人がいなかったり、どのように受け止めればよいか分らず、悩んでいる保護者がいる。 PTA懇談会など、本当に来て欲しい親が来てくれない問題があり、行政からの支援のしくみも構築していく必要がある。 全て行政がお膳立てして子育て中の親を参加させ、支援するだけでなく、若い親たちに自ら企画し実施させるようなプログラムを用意し、行動する親たちを育成することを考えてほしい。 	
20社会教育施設の機能充実	社会教育	<ul style="list-style-type: none"> 公民館が、カルチャー化している。町として社会教育面のどこに力を入れなければならないのか、行政にも責任がある。 放課後子どもプランについて、町レベルでは、連携が取れていない。 人づくりを考えた時、学校教育には図書館、本は不可欠である。宮城の将来は図書室からといっても過言ではない。 	
21地域社会と学校教育との協働の推進	学校・家庭・地域	<ul style="list-style-type: none"> 「家庭との連携」の意識や体制づくりも必要。 学校評価や内部評価を公開していくことや、外部評価委員会の設置等にも努力していかなければならない。家庭とのもっと強い連携のためには、学校からの一方的情報発信ではなく、学校主導での協働体制づくりをして、お互いの立場をきちんと話し合うことができるようにしていく必要がある。 学校・家庭・地域の協働を進めるのは非常に重要。 学校、家庭、地域が役割を明確にし、それぞれ責任を担っていくことが今大事である。 先生だけの力では、危機管理には限界がある。学校、地域、父兄が一体とならなければ、子どもを守ることはできない。 いろいろな対応が学校には出てきているが、限界になってきているのではないか。家庭・地域との役割分担は重要である。 保護者と先生と地域の人々の連携がうまくいけば、「地域で育てる」も軌道に乗る。 学力、体力の低下、不登校、いじめ、校内暴力などが全国的な問題となる中、家庭・地域・学校がそれぞれの教育機能を果たしながら協働して教育活動を展開することが不可欠である。 生活習慣の問題も含めて、家庭、学校、地域の役割を明確にして、連携、融合していくことが必要である。境界線が見えないままに、家庭や地域から学校にどんどん案件が入ってきて、対応しなければならないことになっている。 学校、家庭、地域は、それぞれが協働教育の必要性を理解することが先決である。 地域や家庭の上に成り立っている学校は、地域、家庭と連携することが不可欠だが、学校からの投げかけが重要。 「地域と学校の連携については」、宮城でも行うようにコンセプトを持っていただきたい。学校情報の地域への伝達公開が大事である。 学校に積極的に協力するボランティアを募って、その人達での交流の機会を与えていただくと、地域の人はもっと学校に行きたがる。 保護者、地域と、お互い顔が見える関わりを持つことにより有効な連携が取れる。児童生徒への指導は学校だけではできない。 学校に関係する様々な立場の人や機関が、それぞれの役割を十分に認識し、その役割をさらに広げ、深めていく中で学校と関わっていくという連携の在り方が、学校の教育課題解決に向けた大きな推進力になる。 地域、親の協力が不可欠である。学校が中心となり、スポ少、PTAを巻き込んだ教育の展開が必要である。 学校と保護者の一対一の関係ではなく、多様な人を取り込む仕掛けを考えていくことが、「社会全体で教育に取り組む」ことにつながる。 社会教育・学校教育・地域力の融合が必要である。 「学校」は、保護者や地域の方々の率直な意見を絶えず聞き、教育活動の質的向上を図る。 <p>学校の役割</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校の役割は、学力や知識を付けるだけでなく、集団生活やルールを守ることを知り、癖をつけること。 地震の時の学校の役割、地域との関係を明確にしないといけないと感じた。 	

教育振興基本計画策定に係る県民意見等の概要

施策体系	キーワード	意見聴取会での意見概要	一般意見募集	
	社会全体	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭は、心身ともに安らげる場所である。子供は、自分が愛されている、大事にされていると感じ、そのことが学校や地域社会で生活する糧になっている。 ・学校と保護者の一対一の関係ではなく、多様な人を取り込む仕掛けを考えていくことが、「社会全体で教育に取り組む」ことにつながる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校に縛り付けるのではなく、もっと家庭や民間、子どもに任せるべき。 	
	地域	<ul style="list-style-type: none"> ・最近では共働きも多いので、地域の皆さんの助けが必要である。鹿島台には家庭教育推進協議会があり地域の子どもに関係した団体や老人会などが行政と連携できる体制がある。我々の母親クラブも加盟し、互いに支援をしあっており、こうして裾野が広がっている。 ・先生をサポートしてあげるのが地域力である。 ・学校は学力を付けるところだ、本当に学力を育てるには、地域は地域として子どもを教育する仕組みを作るようにしないと。 ・地域は、心身共に育つ場であり、自分を認めてもらう身近な社会である。地域の人達ともっと親しくなれる機会を作るよう、学校の先生とも協力して取り組んでいきたい。 ・「地域」は、子どもを褒めたり、叱ったりできる地域づくりや、地域の専門家が、学校の授業や活動に積極的に協力する地域づくりを目指す。 ・地域で育てた子ども達が地域の企業に就職し、地元企業の元気の源を創ることが出来るようになれば望ましい姿である。 ・教育の専門家ではない人が学校に来て教育に参加し、刺激を得ることが学校教育では有効である。 ・地域の中にはマンパワーがたくさんある。 ・学校の中だけで、子どもの心の教育を十分にできる環境でなくなった今、地域で子どもを育てることを大いに提唱したい。 ・地域の教育力を高める必要性について、全ての一般市民に理解してもらえるように、これからの施策を考えていく必要がある。 ・地域にいる専門家を十分生かしていき、その人達に主体性を持たせる。 ・少子化の影響で、子どもと地域が接触する機会が少なくなってきている。子ども達を理解する場、認めてあげるきっかけ作りを、町内会などを巻き込んで行ってはどうか。子ども達は、徐々に地域に溶け込んで地域の一員となれるのではないか。 ・地域ぐるみの懇談会は、とても良い。 ・学校でいじめ、家庭で虐待を受けている場合、地域が無関心なら子どもの育つ場所はない。それぞれの場所において、子ども達と関わる大人が増えていくことが大切である。「子どものために」と立ち上がる大人達の力が必要である。 ・まとまりにくい社会になってきている。地域の教育力を高めるにも、ボランティアでは頼めなくなり、予算が嵩むようになってきていると思う。 ・地域の教育力向上のため、子ども会の再生を提言したい。 ・「地域との関わりの希薄化」が問題であると思う。 ・活動する上で、行政に人材バンクの充実をお願いしたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域と先輩に愛される学校づくり 	
	基本的な生活習慣	<ul style="list-style-type: none"> ・「はやね・はやおき・あさごはん」のスローガンは、子どもの学びの基礎力を養うものだ。 ・健全な子ども達の育成には、「はやね・はやおき・あさごはん」といった基本的な生活習慣を身に付けることが大事である。親の関わりも大切である。 ・県が進めている「はやね・はやおき・あさごはん」を地域全体で盛り上げていくことこそが大切である。 ・はやね・はやおき・あさごはん運動には、全職員で取り組んでいるが、地域の実態に合わせた取組が必要である。 ・スポーツ少年団などで遅くまで練習しており「はやね」はできない現状がある。また、メールやゲームなど切実な問題になっているので、早い時期教えていかなければならない。 		
	学校支援	<ul style="list-style-type: none"> ・学校との関係の中でコーディネートして学校の方を向いてくれる人の教育に是非取り組んでいただきたい。 ・学校の中だけで子どもの健全育成を考える時代ではない。 		
県民総スポーツの推進と競技力の向上	22生涯スポーツ社会の実現に向けた環境の充実	<ul style="list-style-type: none"> 生涯スポーツ <ul style="list-style-type: none"> ・21世紀になり、科学技術の発展や生活の利便化により、日常生活における身体活動がますます減少していくことを考えると、個人が主体的にスポーツに取り組むことは極めて重要である。 スポーツクラブ <ul style="list-style-type: none"> ・学校や行政主導のスポーツ振興に限界を感じており、地域や住民が主体となるスポーツクラブが必要 ・経済的にも自立できる地域に根づくスポーツクラブが2つでも3つでも増えて、地域ぐるみのスポーツの振興が図られればよいと願っている。 		
	23地域と連携した学校体育・スポーツの振興に向けた環境の充実	<ul style="list-style-type: none"> 地域スポーツ <ul style="list-style-type: none"> ・部活動が教師の多忙化の一因になっている。スポーツ、部活動は地域に任せてはどうか。このような方向に進めば、指導者にもプロが育ってきて、競技力の向上にもなる。 スポーツ少年団 <ul style="list-style-type: none"> ・少子化の影響による生徒数の減少で、学校での部活動やスポーツ少年団の活動にかなり制約が出ている。 ・集団スポーツに力を入れるべきである。小学校でもスポーツ少年団への参加を促すなど、スポーツ少年団活動が教育の一環であることを明確にし、学校も積極的に関与して、何とか実施できるよう方策を考えるべきである。また、指導者への報酬等も考えるべきである。 		
魅力ある地域文化の醸成	24文化力の育成支援		<ul style="list-style-type: none"> ・小中学生に、県の文化施設の無料パスの配布 	
	生涯学習基盤の確立	25生涯学習推進体制の充実	<ul style="list-style-type: none"> 生涯学習 <ul style="list-style-type: none"> ・生涯学習の様々な制度は、全ての住民が平等に受けられず、一部の恵まれた人だけが参加できるものになっている。 	
	26学習機会の提供	高齢者教育	<ul style="list-style-type: none"> ・持っている力をさらに伸ばせるような高齢者教育が必要。 	

教育振興基本計画策定に係る県民意見等の概要

施策体系	キーワード	意見聴取会での意見概要	一般意見募集
その他	27学校、教育の一般	<p>・学校は子ども達に勉強を教えることが一番大切な役割であるが、人が人らしく生きるための人づくりをする機関でもあり、きちんと働き税金を納めて日本の国を支える一員になるための教育をする場でもある。集団の中で子ども達が競い合い切磋琢磨して自分を見いだし、知るところである。</p> <p>・集団で活動する場と時間は、学校にある。高校で言えば、異なる年齢集団で活動できる場として、部活動、生徒会活動、文化祭、球技大会などがある。その活動の中で、集団での自分の役割や社会性を身に付ける。</p> <p>・義務教育の9年間で一貫した、継続した指導や、教員、保護者が9年間子どもを見守っていくという体制が必要である。</p> <p>・心身共に健全な社会人として基礎形成を全国一律に保障するのが義務教育の基本的スタンスであり、「個性の伸長、特異な人材を育成する」のは高校や高等教育が担うべきものであると認識している。したがって、地域間、学校間の競争は、義務教育になじまない。</p> <p>・義務教育9年間は、人間の最も基本となる土台を形成する時期であり、「知・徳・体」バランスよく調和した児童生徒の育成を図ることが求められている。</p> <p>・強度の優れた業績や成果を挙げた先人を、政治・経済・化学・教育・芸術・スポーツなど各分野から選び出し、道徳や総合的学習、社会科等の授業で活用できる指導資料を作成することを提案したい。夢などの実現に向け、学習や努力の強い動機付け、さらには宮城の風土として、優れた先人の業績を積極的に顕彰する気風を醸成できればとも考える。</p> <p>・「平和を求め、自ら努力していく人間教育」が最も重要である。平和のために必要なことは、「共に支え合い、共に信じ合い、共に生きること」である。</p>	<p>・始業式や運動会の日でも授業を行う。休み時間を短くするなどし、休日を増やす。宿題も減らし読書する時間や友人と遊ぶ時間を増やす。</p> <p>・幼児教育から小中高まで一貫した人づくり教育を行えるよう県と市町村の協力体制をとるべき</p> <p>・どの子にも経済力に関係なく十分な教育の機会を与えられるようにしたい。</p> <p>・土曜休業日の廃止</p> <p>・学校教育で基本的人権について、もっと丁寧に指導する必要がある</p> <p>・給食費不払いの子には、給食の停止</p> <p>・国旗国歌を大切に作る。</p> <p>・少人数の学校の解消</p> <p>・安易に統廃合を進めないで欲しい</p> <p>・宮城県独自の奨学資金を出す制度をつくってほしい。</p> <p>・PTAからの餞別・謝恩会の辞退</p> <p>・教育費の無償化の実現</p> <p>・教育委員の資質の向上を</p> <p>・学校制度を単線化するよう努力する必要がある</p>
	28子育て	<p>・安心して子育てができるよう、学校や地域の方々に協力いただき、さらには将来を担う子ども達のために行政や企業にも思い切った発想の転換をしていただき、これからの日本のために素晴らしいシステムを構築していただきたい。</p> <p>・手探りで子育てしているお母さん達は、「何も知らない」のである。</p> <p>・子育て支援は、教育でも指導でもない。お母さん達が、もともと持っている「生きる力」を私たちが引き出してあげることが大切である。</p> <p>・自分の家から歩いていける距離に、支援してくれる場があるのが理想である。</p> <p>・「のびすく」に行かなくても近所に相談できる場を自主的に作っていくことを教育振興基本計画の柱としてほしい。官が作った政策だけでは限界がある。</p> <p>・母親が一定時期に子育てに専念できる支援を行う教育施策を宮城県として打ち出してほしい。</p> <p>・親が忙しすぎて、親自身の生活を優先させていることによって、子どもに朝食を与えない親、朝起きない親が増えている。子育てしながらも働きやすい職場環境を構築することが不可欠である。中小企業に対し、各市町村からの支援や働きかけがあると、地域全体の機運を高めやすく、有効だと思う。</p> <p>・子育てに父親の出番は不可欠である。</p> <p>・子どもをどう育てたいかという思いだけでなく、子育てをどう楽しむか、自分を育てる「育自」がとても大切である。</p>	<p>・子育て支援休暇の新設と企業への啓蒙を</p>
	29教育予算	<p>・楽しく、楽な方に流されていく傾向が見られ、物事に粘り強く、我慢強く取り組もうとする子どもは年々減少している。</p> <p>・現代の子どもや若者の姿は、①親の愛情が足りない(スキンシップが足りない)、②自分に自信がないと感じている、③存在感がないと感じている、④想像力がない、⑤その他:勝ち組、負け組、格差</p> <p>・現代の子どもは、自ら環境の変化に合わせていくことが苦手である。</p> <p>・「この人の言うことなら信じられる」というような気持ちを持たない限り、子ども達はなかなか付いてこない。普段の何気ない会話、あいさつ、目と目を合わせるということの積み重ねが大事である。</p> <p>・教育振興基本計画であるので、予算の裏付けされたい。</p> <p>・教育予算の充実が必要である。</p> <p>・教育の内容を破壊する計画とならないようにして欲しい。足りない人員と予算を確保するよう、計画に盛り込んで欲しい。</p>	<p>・教員の給与カットはせず、手当を廃止して、その金額で何をしたいか公表する。</p> <p>・十分な教育予算と十分な条件整備をして、学校を教師達と共に学び合い、自分を豊かにするところと実感させるところにしたい。</p>

3 教育に関する県民意識調査

1 調査目的

教育基本法第 17 条第 2 項の規定に基づき、本県教育の振興に関する総合的かつ計画的な推進を図るため、基本的な方針、講ずべき施策の方向性等を示す本県の教育振興基本計画を策定するに当たり、県民の教育に関する意識をアンケート形式により調査し、本計画策定の基礎資料とするもの

2 調査項目

県民の教育に関する意識を調査するため、本調査の調査項目は概ね次のとおりとする。

- (1) 学校教育や家庭教育など教育の現状等に関すること
- (2) これからの教育の目指すべき方向性に関すること
- (3) 学校、家庭、地域等が担うべき教育の役割と期待に関すること
- (4) 生涯学習、スポーツ、文化、芸術等に関すること

3 調査地域 宮城県全域

4 調査対象

① 一般県民

県内に在住する平成 20 年 4 月 1 日現在で満 20 歳以上の男女 3,000 人 (男 1,500 人, 女 1,500 人)

② 学校等保護者

県内の保育所・幼稚園・小学校・中学校・高等学校・特別支援学校 26 校 (所・園) の保護者 1,603 人

5 調査方法

(1) 調査票の配布、回収は郵送等により行う。

(2) 調査標本の抽出方法

① 一般県民

県内全市区町村選挙人名簿から無作為抽出

② 学校等保護者

地域バランス、学校種を考慮した上で学校統計要覧等から抽出

6 調査期間 平成 20 年 9 月 19 日～平成 20 年 10 月 10 日

7 回収結果

① 一般県民

回答数 1,034 通 回収率 34.47%

② 学校等保護者

回答数 1,293 通 回収率 80.66%

「教育に関する意識調査」集計結果

I 宮城の子どもたちの将来について

(1) これからの社会には、どのような人がより必要だと思いますか。(3つまで)

【概要】

○「社会のルールを守り、正義や責任などの気持ちをしっかり持つ人」、「よい人間関係をつくるコミュニケーション能力があり、人と協力してものごとにあたることのできる人」、「自分で考え行動するなど、自立心をもつ人」が多い回答となっている。

【一般県民と保護者の比較】 傾向はほぼ同じである。

	n=3,033	n=3,760	n=6,793
	【一般県民】	【保護者】	(参考) 【総計】
(1) いつも学びつづけ、自分を高める努力をする人	135 4.5%	188 5.0%	323 4.8%
○ (2) 自分で考え行動するなど、自立心をもつ人	410 13.5%	611 16.3%	1,021 15.0%
(3) 未来のことや新しいことを考える力があり、社会をより良くしようとする人	284 9.4%	319 8.5%	603 8.9%
(4) 地域の行事に積極的に参加するなど、地域を支えることに熱心な人	187 6.2%	142 3.8%	329 4.8%
(5) 豊かな心、すこやかな身体、高い教養をバランス良くあわせ持つ人	181 6.0%	229 6.1%	410 6.0%
○ (6) 社会のルールを守り、正義や責任などの気持ちをしっかり持つ人	584 19.3%	646 17.2%	1,230 18.1%
○ (7) よい人間関係をつくるコミュニケーション能力があり、人と協力してものごとにあたることのできる人	477 15.7%	647 17.2%	1,124 16.5%
(8) 苦しさ・つらさなどに耐える力を持ち、ねばり強くものごとにあたる人	449 14.8%	545 14.5%	994 14.6%
(9) 美しいもの、すばらしいことに感動する心を持ち、感じたこと考えたことを表現できる人	241 7.9%	352 9.4%	593 8.7%
(10) 文化・芸術、スポーツなどで活躍し、夢や感動をあたえる人	73 2.4%	69 1.8%	142 2.1%
(11) その他	9 0.3%	10 0.3%	19 0.3%
無回答・無効回答	3 0.1%	2 0.1%	5 0.1%

(2) これから子どもたちが育っていく上で特に必要なことは何だと思いますか。(3つまで)

【概要】

○「やってよいことと、してはいけないことの判断ができること」、「困ったときにどうするか、状況を見て決められる判断力を持つこと」、「身体が丈夫で健康なこと」が多い回答となっている。

【一般県民と保護者の比較】 傾向はほぼ同じである。

	n=3,065	n=3,735	n=6,800
	【一般県民】	【保護者】	(参考) 【総計】
○ (1) 身体が丈夫で健康なこと	373 12.2%	483 12.9%	856 12.6%
(2) 社会の役に立とうとする気持ちを持つこと	74 2.4%	74 2.0%	148 2.2%
(3) 身につけた知識や技能を社会のために活用できる力を持つこと	170 5.5%	116 3.1%	286 4.2%
○ (4) 困ったときにどうするか、状況を見て決められる判断力を持つこと	359 11.7%	590 15.8%	949 14.0%
(5) 新しい考え方で新しいものごとを創り出す力を持つこと	51 1.7%	41 1.1%	92 1.4%
(6) 自ら進んで学ぼうとする意欲を持つこと	183 6.0%	257 6.9%	440 6.5%
(7) 他人の立場を理解し尊重できること	374 12.2%	454 12.2%	828 12.2%
(8) 他人を信じ、良好な人間関係を築く力を持つこと	75 2.4%	100 2.7%	175 2.6%
○ (9) やってよいことと、してはいけないことの判断ができること	599 19.5%	656 17.6%	1,255 18.5%
(10) 美しいもの、清らかなものに感動できること	48 1.6%	67 1.8%	115 1.7%
(11) 礼儀正しいこと	126 4.1%	157 4.2%	283 4.2%
(12) 伝統や文化を大切にし、日本やふる里を好きになること	82 2.7%	58 1.6%	140 2.1%
(13) 生命や自然を大切にすることをもちこつこと	315 10.3%	386 10.3%	701 10.3%
(14) 国際的な広いものの見方ができる力を持つこと	83 2.7%	89 2.4%	172 2.5%
(15) 将来自分が何をしたいか、しっかり考えられること	147 4.8%	202 5.4%	349 5.1%
(16) その他	3 0.1%	3 0.1%	6 0.1%
無回答・無効回答	3 0.1%	2 0.1%	5 0.1%

(3) 子どもたちの教育環境で、これからはどのようなことが特に大切だと思いますか。(3つまで)

【概要】

○「安全・安心な地域づくり」、「親子のコミュニケーションがしっかりとれるようにすること」、「隣近所が仲良く、大人たちと子どもの関わりが多い地域づくり」が多い回答となっている。

【一般県民と保護者の比較】

★傾向はほぼ同じであるが、保護者では、「安全・安心な地域づくり」の回答率が最も高く、一般県民は「親子のコミュニケーションがしっかりとれるようにすること」の回答率が最も高い。

		n=2,998	n=3,459	n=6,457
		【一般県民】	【保護者】	(参考) 【総計】
	(1) 学校で教える勉強や学習の内容	236 7.9%	342 9.9%	578 9.0%
	(2) 学校の施設や設備を整えること	98 1.3%	66 1.9%	104 1.6%
	(3) 特色のある魅力的な学校	153 5.1%	119 3.4%	272 4.2%
	(4) 高い資質・能力を持つ学校の教師	213 7.1%	231 6.7%	444 6.9%
	(5) 教師が子どもと過ごす時間をたくさん持てること	165 5.5%	179 5.2%	344 5.3%
	(6) 障害のある子どもがきちんと学べること	151 5.0%	156 4.5%	307 4.8%
○★	(7) 親子のコミュニケーションがしっかりとれるようにすること	430 14.3%	491 14.2%	921 14.3%
	(8) 幼児期(3歳まで)の家庭教育がしっかりとれるようにすること	203 6.8%	123 3.6%	326 5.0%
	(9) 親が子育てを学ぶ場をもっとつくること	177 5.9%	139 4.0%	316 4.9%
	(10) 子どもに悪い影響をあたえる携帯電話やインターネットなどへの対応の指導を行うこと	197 6.6%	228 6.6%	425 6.6%
	(11) 放課後や休日に、子どもたちがいっしょに遊んだり活動したりする場や行事をつくること	183 6.1%	189 5.5%	372 5.8%
○	(12) 隣近所の仲がよく、大人たちと子どもの関わりが多い地域づくり	342 11.4%	309 8.9%	651 10.1%
○★	(13) 安全・安心な地域づくり	381 12.7%	692 20.0%	1,073 16.6%
	(14) だれもが、いつでも、気軽に身体を動かしたり、読書や文化・芸術活動ができること	114 3.8%	164 4.7%	278 4.3%
	(15) その他	13 0.4%	24 0.7%	37 0.6%
	無回答・無効回答	2 0.1%	7 0.2%	9 0.1%

(4) 社会の大きな変化の中で、これからの教育は、学校や家庭だけでなく、地域住民、企業、社会教育団体、NPOなどからなる地域社会全体の問題として取り組んでいくことが必要といわれていますが、そう思いますか。(1つ)

【概要】

○「そう思う」「どちらかといえばそう思う」が8割に近い回答となっている。

【一般県民と保護者の比較】

傾向はほぼ同じであるが、一般県民では「そう思う」の回答率が高い。一方、保護者は「どちらかといえばそう思う」の回答率が高い。

		n=1,034	n=1,293	n=2,327
		【一般県民】	【保護者】	(参考) 【総計】
○★	(1) そう思う	524 50.7%	540 41.8%	1,064 45.7%
★	(2) どちらかといえばそう思う	300 29.0%	461 35.7%	761 32.7%
	(3) どちらかといえばそう思わない	29 2.8%	45 3.5%	74 3.2%
	(4) そうは思わない	64 6.2%	42 3.2%	106 4.6%
	(5) どちらともいえない	76 7.4%	116 9.0%	192 8.3%
	(6) わからない	34 3.3%	72 5.6%	106 4.6%
	無回答・無効回答・無効回答	7 0.7%	17 1.3%	24 1.0%

Ⅱ 学校教育(幼稚園・小学校・中学校・高等学校)の今とこれからについて

(5) 今の幼稚園の教育についてどう思いますか。(1つ)

【概要】

○約半数が「満足している」又は「ほぼ満足している」と答えており、「不満である」又は「やや不満である」との回答は2割を下回っている。

【一般県民と保護者の比較】

傾向はほぼ同じであるが、保護者の満足度がより高い。
また、一般県民では「わからない」への回答率が高い。

	n=1,034	n=1,293	n=2,327
	【一般県民】	【保護者】	(参考) 【総計】
○ (1) 満足している	93 9.0%	178 13.8%	271 11.6%
(2) ほぼ満足している	369 35.7%	508 39.3%	877 37.7%
(3) やや不満である	118 11.4%	179 13.8%	297 12.8%
(4) 不満である	68 6.6%	65 5.0%	133 5.7%
(5) どちらともいえない	111 10.7%	150 11.6%	261 11.2%
(6) わからない	267 25.8%	185 14.3%	452 19.4%
無回答・無効回答・無効回答	8 0.8%	28 2.2%	36 1.5%

(6) 幼稚園の教育では、どのようなことに力を入れたらよいと思いますか。(2つまで)

【概要】

○3割を超える方が「遊びを通していろいろな経験をさせること」に力を入れたらよいと回答しており、次に「美しいものに感動する心や、好奇心を持ってものごとの様子を探る心を育てること」が多い回答となっている。

【一般県民と保護者の比較】

★傾向はほぼ同じであるが、「きちんとした『しつけ』をすること」について、保護者より一般県民の回答率が高い。
また、「個性や適正を伸ばすこと」については、保護者の回答率が高い。

	n=1,986	n=2,442	n=4,428
	【一般県民】	【保護者】	(参考) 【総計】
○ (1) 遊びを通していろいろな経験をさせること	614 30.9%	798 32.7%	1,412 31.9%
(2) 文字や数字を教えるなど知的な教育をおこなうこと	53 2.7%	86 3.5%	139 3.1%
★ (3) きちんとした「しつけ」をすること	336 16.9%	287 11.8%	623 14.1%
★ (4) 個性や適性を伸ばすこと	128 6.4%	224 9.2%	352 7.9%
(5) 道徳心や社会性を育てること	358 18.0%	408 16.7%	766 17.3%
(6) 体力をつけ、たくましさを養うこと	112 5.6%	122 5.0%	234 5.3%
○ (7) 美しいものに感動する心や、好奇心を持ってものごとの様子を探る心を育てること	371 18.7%	478 19.6%	849 19.2%
(8) その他	9 0.5%	14 0.6%	23 0.5%
無回答・無効回答	5 0.3%	25 1.0%	30 0.7%

(7) 今の小学校の教育についてどう思いますか。(1つ)

【概要】

○約4割が「満足している」「ほぼ満足している」と答えているものの、「不満である」「やや不満であると」との回答も3割を超えている。

【一般県民と保護者の比較】

★傾向はほぼ同じであるが、保護者の満足度がより高い。また、一般県民の「わからない」の回答率が高い。

	n=1,034	n=1,293	n=2,327
	【一般県民】	【保護者】	(参考) 【総計】
○ (1) 満足している	57 5.5%	62 4.8%	119 5.1%
○ ★ (2) ほぼ満足している	296 28.6%	518 40.1%	814 35.0%
(3) やや不満である	242 23.4%	307 23.7%	549 23.6%
(4) 不満である	126 12.2%	119 9.2%	245 10.5%
(5) どちらともいえない	114 11.0%	138 10.7%	252 10.8%
★ (6) わからない	187 18.1%	88 6.8%	275 11.8%
無回答・無効回答	12 1.2%	61 4.7%	73 3.1%

(8) 今の中学校の教育についてどう思いますか。(1つ)

【概要】

○「満足している」「ほぼ満足している」と答えが約2割にとどまり、「不満である」「やや不満である」との回答が約4割になっている。

【一般県民と保護者の比較】

★一般県民の方が満足度が低い傾向にある。
また、一般県民では「わからない」の回答率が高い。

	n=1,034	n=1,293	n=2,327
	【一般県民】	【保護者】	(参考) 【総計】
(1) 満足している	27 2.6%	36 2.8%	63 2.7%
★(2) ほぼ満足している	179 17.3%	303 23.4%	482 20.7%
○(3) やや不満である	258 25.0%	290 22.4%	548 23.5%
★(4) 不満である	191 18.5%	162 12.5%	353 15.2%
(5) どちらともいえない	114 11.0%	146 11.3%	260 11.2%
★(6) わからない	231 22.3%	218 16.9%	449 19.3%
無回答・無効回答	34 3.3%	138 10.7%	172 7.4%

(9) 小学校の教育では、どのようなことに力を入れたらよいと思いますか。(3つまで)

【概要】

○「基礎的な学力を身につけさせること」が3割に近い回答となっており、「基本的な生活習慣を身につけさせること」「道徳教育の充実」「教師と児童・生徒がよりよい人間関係を築くこと」が多い回答となっている。

【一般と保護者の比較】

傾向はほぼ同じである。

	n=2,916	n=3,502	n=6,418
	【一般県民】	【保護者】	(参考) 【総計】
○(1) 基礎的な学力を身につけさせること	759 26.0%	1,004 28.7%	1,763 27.5%
○(2) 基本的な生活習慣を身につけさせること	513 17.6%	539 15.4%	1,052 16.4%
○(3) 道徳教育の充実	492 16.9%	524 15.0%	1,016 15.8%
(4) いじめ、非行、不登校などへの対応の強化	317 10.9%	416 11.9%	733 11.4%
(5) 小学校と中学校の連携を強めること	87 3.0%	108 3.1%	195 3.0%
(6) 進路指導の充実	18 0.6%	24 0.7%	42 0.7%
(7) 教師と児童・生徒がよりよい人間関係を築くこと	409 14.0%	530 15.1%	939 14.6%
(8) 家庭や地域との連絡・交流などの連携	262 9.0%	213 6.1%	475 7.4%
(9) 学校の施設・設備の充実	36 1.2%	65 1.9%	101 1.6%
(10) その他	10 0.3%	13 0.4%	23 0.4%
無回答・無効回答	13 0.4%	66 1.9%	79 1.2%

(10) 中学校の教育では、どのようなことに力を入れたらよいと思いますか。(3つまで)

【概要】

○約2割が「基礎的な学力を身につけさせること」と答えているほか、「いじめ、非行、不登校などへの対応の強化」「教師と児童・生徒がよりよい人間関係を築くこと」が多い回答となっている。

【一般県民と保護者の比較】 傾向はほぼ同じである。

	n=2,883		n=3,314		n=6,197	
	【一般県民】	【保護者】	(参考)	【総計】		
○ (1) 基礎的な学力を身につけさせること	532 18.5%	689 20.8%		1,221 19.7%		
(2) 基本的な生活習慣を身につけさせること	249 8.6%	197 5.9%		446 7.2%		
(3) 道徳教育の充実	395 13.7%	357 10.8%		752 12.1%		
○ (4) いじめ、非行、不登校などへの対応の強化	489 17.0%	562 17.0%		1,051 17.0%		
(5) 小学校と中学校の連携を強めること	91 3.2%	79 2.4%		170 2.7%		
(6) 進路指導の充実	370 12.8%	506 15.3%		876 14.1%		
○ (7) 教師と児童・生徒がよりよい人間関係を築くこと	427 14.8%	512 15.4%		939 15.2%		
(8) 家庭や地域との連絡・交流などの連携	212 7.4%	156 4.8%		370 6.0%		
(9) 学校の施設・設備の充実	73 2.5%	86 2.6%		159 2.6%		
(10) その他	14 0.5%	21 0.6%		35 0.6%		
無回答・無効回答	31 1.1%	147 4.4%		178 2.9%		

(11) 今の高等学校の教育についてどう思いますか。(1つ)

【概要】

○「満足している」「ほぼ満足している」の満足傾向、「不満である」又は「やや不満である」との不満足傾向は、共に3割近い回答となっている。

【一般県民と保護者の比較】

★一般県民は不満足傾向が高いのに対して、保護者は満足傾向が高い。

	n=1,034		n=1,293		n=2,327	
	【一般県民】	【保護者】	(参考)	【総計】		
(1) 満足している	33 3.2%	40 3.1%		73 3.1%		
○ ★ (2) ほぼ満足している	225 21.8%	355 27.5%		580 24.9%		
(3) やや不満である	216 21.1%	220 17.0%		438 18.8%		
★ (4) 不満である	131 12.7%	83 6.4%		214 9.2%		
(5) どちらともいえない	141 13.6%	166 12.8%		307 13.2%		
(6) わからない	267 25.8%	385 29.8%		652 28.0%		
無回答・無効回答	19 1.8%	44 3.4%		63 2.7%		

(12) 高等学校の教育では、どのようなことに力を入れていけばよいと思いますか。(3つまで)

【概要】

○「一人一人の適性や希望を踏まえた進路指導の充実」が最も多く、次に「高校生として求められる学力の習得のための学習指導の充実」、「道徳教育の充実」が多い回答となっている。

【一般県民と保護者の比較】

★傾向はほぼ同じであるが、「家庭への教育費の負担を軽減すること」について、保護者の回答率が高い。

	n=2,939		n=3,503		n=6,442	
	【一般県民】		【保護者】		(参考)	【総計】
(1) 非行防止の取り組みなど、生徒の健全育成	357 12.1%		360 10.3%		717 11.1%	
○ (2) 道徳教育の充実	382 13.0%		385 11.0%		767 11.9%	
○ (3) 一人一人の適性や希望を踏まえた進路指導の充実	610 20.8%		811 23.2%		1,421 22.1%	
○ (4) 高校生として求められる学力の習得のための学習指導の充実	511 17.4%		579 16.5%		1,090 16.9%	
(5) 教員と生徒がよりよい人間関係を築くこと	236 8.0%		281 8.0%		517 8.0%	
(6) 校則を見直すなど、生徒の自主性を尊重すること	111 3.8%		100 2.9%		211 3.3%	
★ (7) 家庭への教育費の負担を軽減すること	215 7.3%		443 12.6%		658 10.2%	
(8) 農業・工業・商業などの専門教育の充実	231 7.9%		212 6.1%		443 6.9%	
(9) 家庭や地域との連携や交流を多くすること	91 3.1%		76 2.2%		167 2.6%	
(10) 部活動などの指導の充実	116 3.9%		124 3.5%		240 3.7%	
(11) 学校の施設・設備の充実	48 1.6%		68 1.9%		116 1.8%	
(12) その他	21 0.7%		26 0.7%		47 0.7%	
無回答・無効回答	10 0.3%		38 1.1%		48 0.7%	

(13) 特別支援教育(障害などをもつ子どものための教育)について、あなたの考えに近いものは何ですか。(2つまで)

【概要】

○「どのような教育が適切かは、障害の種別によって異なるので、専門家の助言を参考にすることが望ましい」が3割に近い回答となっている。次いで「学校の選択は、保護者や本人の意思を第一に尊重すべきである」が多い回答となっている。

【一般県民と保護者の比較】 傾向はほぼ同じである。

	n=1,909		n=2,255		n=4,164	
	【一般県民】		【保護者】		(参考)	【総計】
(1) 地域の小・中学校などで、すべていっしょに教育することが望ましい	96 5.0%		95 4.2%		191 4.6%	
(2) 通常の学級に在籍し、必要に応じて適切な教育をすることが望ましい	291 15.2%		345 15.3%		636 15.3%	
(3) 特別支援学級に在籍し、交流や共同学習を行い適切な教育をすることが望ましい	306 16.0%		404 17.9%		710 17.1%	
(4) 必要な設備やスタッフの整った専門の学校(特別支援学校)で教育することが望ましい	218 11.4%		178 7.9%		396 9.5%	
○ (5) どのような教育が適切かは、障害の種別によって異なるので、専門家の助言を参考にすることが望ましい	531 27.8%		651 28.9%		1,182 28.4%	
○ (6) 学校の選択は、保護者や本人の意思を第一に尊重すべきである	440 23.0%		546 24.2%		986 23.7%	
(7) その他	18 0.9%		14 0.6%		32 0.8%	
無回答・無効回答	9 0.5%		22 1.0%		31 0.7%	

(14)望ましい(小学校の)教師とは、どのような教師だと思いますか。(3つまで)

【概要】

○「子どもによくわかる教え方をする教員」が3割に近い回答となっており、次いで「公平に子どもと接する教員」、「子どもの立場になってくれる教員」、「子どもの適性を把握し、個性を伸ばす教員」が多い回答となっている。

【一般県民と保護者の比較】 傾向はほぼ同じである。

	n=2,973		n=3,580		n=6,553	
	【一般県民】		【保護者】		(参考) 【総計】	
(1) 高い専門的知識や技術を持つ教員	47 1.6%		70 2.0%		117 1.8%	
○ (2) 子どもによくわかる教え方をする教員	835 28.1%		969 27.1%		1,804 27.5%	
(3) 物事や現象を感動を持って語ることでできる感性豊かな教員	311 10.5%		310 8.7%		621 9.5%	
○ (4) 子どもの立場になって考える教員	314 10.6%		474 13.2%		788 12.0%	
(5) 明るく子どもと接する教員	275 9.2%		251 7.0%		526 8.0%	
○ (6) 公平に子どもと接する教員	496 16.7%		619 17.3%		1,115 17.0%	
○ (7) 子どもの適性を把握し、個性を伸ばす教員	321 10.8%		467 13.0%		788 12.0%	
(8) 子どもをきびしく指導できる教員	126 4.2%		140 3.9%		266 4.1%	
(9) 何でも気軽に相談できる教員	147 4.9%		162 4.5%		309 4.7%	
(10) 学校だけでなく、地域活動や社会活動でも指導者になってくれる教員	95 2.9%		47 1.3%		132 2.0%	
(11) その他	6 0.2%		6 0.2%		12 0.2%	
無回答・無効回答	10 0.3%		65 1.8%		75 1.1%	

(15)望ましい(中学校の)教師とは、どのような教師だと思いますか。(3つまで)

【概要】

○「子どもによくわかる教え方をする教員」「子どもの適性を把握し、個性を伸ばす教員」「公平に子どもと接する教員」が比較的に多い回答となっている。

【一般県民と保護者の比較】 傾向はほぼ同じである。

	n=2,939		n=3,404		n=6,343	
	【一般県民】		【保護者】		(参考) 【総計】	
(1) 高い専門的知識や技術を持つ教員	163 5.5%		199 5.8%		362 5.7%	
○ (2) 子どもによくわかる教え方をする教員	477 16.2%		635 18.7%		1,112 17.5%	
(3) 物事や現象を感動を持って語ることでできる感性豊かな教員	272 9.3%		243 7.1%		515 8.1%	
(4) 子どもの立場になって考える教員	301 10.2%		351 10.3%		652 10.3%	
(5) 明るく子どもと接する教員	68 2.3%		68 2.0%		136 2.1%	
○ (6) 公平に子どもと接する教員	403 13.7%		484 14.2%		887 14.0%	
○ (7) 子どもの適性を把握し、個性を伸ばす教員	487 16.6%		558 16.4%		1,045 16.5%	
(8) 子どもをきびしく指導できる教員	286 9.7%		275 8.1%		561 8.8%	
(9) 何でも気軽に相談できる教員	323 11.0%		380 11.2%		703 11.1%	
(10) 学校だけでなく、地域活動や社会活動でも指導者になってくれる教員	128 4.4%		57 1.7%		185 2.9%	
(11) その他	6 0.2%		7 0.2%		13 0.2%	
無回答・無効回答	25 0.9%		147 4.3%		172 2.7%	

(16)望ましい(高校の)教師とは、どのような教師だと思いますか。(3つまで)

【概要】

○「高い専門的知識や技術を持つ教員」「子どもの適性を把握し、個性を伸ばす教員」「何でも気軽に相談できる教員」が多い回答となっている。

【一般県民と保護者の比較】 傾向はほぼ同じである。

	n=2,916	n=3,309	n=6,225
	【一般県民】	【保護者】	(参考) 【総計】
○ (1) 高い専門的知識や技術を持つ教員	650 22.3%	670 20.2%	1,320 21.2%
(2) 子どもによくわかる教え方をする教員	272 9.3%	386 11.7%	658 10.6%
○ (3) 物事や現象を感動を持って語ることでできる感性豊かな教員	236 8.1%	190 5.7%	426 6.8%
(4) 子どもの立場になって考える教員	179 6.1%	214 6.5%	393 6.3%
(5) 明るく子どもと接する教員	29 1.0%	47 1.4%	76 1.2%
(6) 公平に子どもと接する教員	235 8.1%	299 9.0%	534 8.6%
○ (7) 子どもの適性を把握し、個性を伸ばす教員	518 17.8%	610 18.4%	1,128 18.1%
(8) 子どもをきびしく指導できる教員	232 8.0%	234 7.1%	466 7.5%
○ (9) 何でも気軽に相談できる教員	367 12.6%	386 11.7%	753 12.1%
(10) 学校だけでなく、地域活動や社会活動でも指導者になってくれる教員	156 5.3%	91 2.8%	247 4.0%
(11) その他	13 0.4%	7 0.2%	20 0.3%
無回答・無効回答	29 1.0%	175 5.3%	204 3.3%

(17) 宮城県の小・中学生の学力は、平成19年度から実施された全国学力・学習状況調査の結果をみると、2年連続して全国平均を下回る状況が続いています。このことについてどう思いますか。(2つまで)

【概要】

○「ドリル学習を行うなど、各教科の基礎基本をしっかりと身に付けさせることが大切である」と「テストの点数を上げることよりも、将来に夢を描いて努力すること、命を大切にすることや思いやりの心を育てることなどを重視するべきである」がともに3割を超える回答となっている。

【一般県民と保護者の比較】

★傾向はほぼ同じであるが、「ドリル学習を行うなど、各教科の基礎基本をしっかりと身に付けさせることが大切である」については、保護者の回答率が高い。

また、「テストの点数を上げることよりも、将来に夢を描いて努力すること、命を大切にすることや思いやりの心を育てることなどを重視するべきである」については、一般県民の回答率が高い。

	n=1,897	n=2,226	n=4,123
	【一般県民】	【保護者】	(参考) 【総計】
(1) 全国でもトップクラスを目指し、もっと高い点を取れるよう努力が必要である	123 6.5%	180 8.1%	303 7.3%
○ ★ (2) ドリル学習を行うなど、各教科の基礎基本をしっかりと身に付けさせることが大切である	594 31.3%	830 37.3%	1,424 34.5%
○ ★ (3) テストの点数を上げることよりも、将来に夢を描いて努力すること、命を大切にすることや思いやりの心を育てることなどを重視するべきである	695 36.6%	701 31.5%	1,396 33.9%
(4) 学力よりも、体力を付けることが重要である	104 5.5%	91 4.1%	195 4.7%
(5) 全国の平均や他県との数字の比較は意味がない	309 16.3%	354 15.9%	663 16.1%
(6) その他	68 3.6%	56 2.5%	124 3.0%
無回答・無効回答	4 0.2%	14 0.6%	18 0.4%

(18) 平成19年度から実施された全国学力・学習状況調査の結果によると、平日及び休日に学校以外で勉強する時間が全国と比べてかなり少ないことが分かりました。このことについてどう思いますか。(2つまで)

【概要】

○「学習は時間よりも質が大事であり、効果的な家庭学習の方法を研究する必要がある」が3割を超え、次いで「学校の学習で十分な学力が身につくようにするべきである」が多い回答となっている。

【一般県民と保護者の比較】 傾向はほぼ同じである。

	n=1,898	n=2,242	n=4,140
	【一般県民】	【保護者】	(参考) 【総計】
(1) 宿題をもっと多く出すなど、家庭と学校が連携し勉強を促す取組が必要である	209 11.0%	347 15.5%	556 13.4%
(2) 子どもの学習習慣が身に付くよう保護者が家庭で教育しなければならない	327 17.2%	349 15.6%	676 16.3%
(3) 塾などをうまく利用して時間を増やすべき	64 3.4%	82 3.7%	146 3.5%
○ (4) 学習は時間よりも質が大事であり、効果的な家庭学習の方法を研究する必要がある	598 31.5%	704 31.4%	1,302 31.4%
○ (5) 学校の学習で十分な学力が身につくようにするべきである	480 25.3%	509 22.7%	989 23.9%
(6) 全国の平均や他県と比べても意味がない	176 9.3%	204 9.1%	380 9.2%
(7) その他	40 2.1%	35 1.6%	75 1.8%
無回答・無効回答	4 0.2%	12 0.5%	16 0.4%

(19) 毎年文部科学省が行っている調査によって、宮城県の高校生の大学進学率・現役進学達成率が全国的に見て低位となっています。このことについてどう思いますか。(1つ)

【概要】

○「進学も就職も、生徒自身が早いうちに将来なりたい職業などの希望を持ち、目標に向けて努力させることが大切である」が約4割と最も多い。

【一般県民と保護者の比較】

★傾向はほぼ同じであるが、「進学も就職も、生徒自身が早いうちに将来なりたい職業などの希望を持ち、目標に向けて努力させることが大切である」について、一般県民の回答率が高い。

	n=1,034	n=1,293	n=2,327
	【一般県民】	【保護者】	(参考) 【総計】
(1) 生徒が希望した大学等に入学できるよう、低位となっている原因を調べ、生徒の適性に見合った進学指導にもっと力を入れる必要がある	239 23.1%	327 25.3%	566 24.3%
(2) 生徒の希望を尊重した結果であれば、進学率や現役進学達成率が低くても特に問題ではない	272 26.3%	333 25.8%	605 26.0%
○ ★ (3) 進学も就職も、生徒自身が早いうちに将来なりたい職業などの希望を持ち、目標に向けて努力させることが大切である	439 42.5%	480 37.1%	919 39.5%
(4) 他の都道府県と数字上の結果を比較するのは意味がない	48 4.6%	71 5.5%	119 5.1%
(5) その他	12 1.2%	18 1.4%	30 1.3%
無回答・無効回答	24 2.3%	64 4.9%	88 3.8%

(20) 平成18年度に行われた文部科学省の調査によると、宮城県内の学校でのいじめが発生する割合、子どもが不登校になる割合は、全国平均よりも高くなっています。これらの問題の大きな原因はどこにあると思いますか。(2つまで)

【概要】

○「人を敬う気持ちや、他人への思いやり、いたわりが少ない地域社会の風潮」、「子どもたちのコミュニケーション能力の低下」、「親が仕事で忙しく子どもと過ごす時間が少ないなどの家庭環境」が多い回答となっている。

【一般県民と保護者の比較】

★傾向はほぼ同じであるが、「子どもたちのコミュニケーション能力の低下」については、保護者の回答率が高い。

	n=1,998		n=2,434		n=4,432	
	【一般県民】	【保護者】	(参考)	【総計】		
○ (1) 親が仕事で忙しく子どもと過ごす時間が少ないなどの家庭環境	410 20.5%	423 17.4%		833 18.8%		
○ (2) 人を敬う気持ちや、他人への思いやり、いたわりが少ない地域社会の風潮	503 25.2%	641 26.3%		1,144 25.8%		
(3) 携帯電話やインターネット、有害なテレビ番組、雑誌など	249 12.5%	290 11.9%		539 12.2%		
(4) 学校・教師の対応や指導が不十分	148 7.4%	159 6.5%		307 6.9%		
(5) 家庭と学校の連携の不足	166 8.3%	170 7.0%		336 7.6%		
(6) 受験や成績など親の期待に対するストレス	128 6.4%	113 4.6%		241 5.4%		
○★ (7) 子どもたちのコミュニケーション能力の低下	358 17.9%	577 23.7%		935 21.1%		
(8) その他	30 1.5%	50 2.1%		80 1.8%		
無回答・無効回答	6 0.3%	11 0.5%		17 0.4%		

(21) 児童生徒のいじめ、不登校などへの対応として、特に必要と思われることは何ですか。(2つまで)

【概要】

○「奉仕活動や福祉体験などを通じて、思いやりの心や公共心などを育てること」、「親が仕事で忙しく子どもと過ごす時間が少ないなどの家庭環境の改善」が多い回答となっている。

【一般県民と保護者の比較】

★傾向はほぼ同じであるが、「奉仕活動や福祉体験などを通じて、思いやりの心や公共心などを育てること」については、一般県民の回答率が高い。

	n=1,950		n=2,331		n=4,281	
	【一般県民】	【保護者】	(参考)	【総計】		
○ (1) 親が仕事で忙しく子どもと過ごす時間が少ないなどの家庭環境の改善	391 20.1%	493 21.1%		884 20.6%		
(2) 学校において道徳教育や生徒指導に力を入れること	339 17.4%	433 18.6%		772 18.0%		
○★ (3) 奉仕活動や福祉体験などを通じて、思いやりの心や公共心などを育てること	485 24.9%	447 19.2%		932 21.8%		
(4) 学校にカウンセラー、相談員などの専門家を置き、子どもや保護者が相談しやすい体制を作ること	360 18.5%	458 19.6%		818 19.1%		
(5) 道徳に関する講演やシンポジウムを開催したり、啓発パンフレットを配付し県民の気運を高めること	47 2.4%	46 2.0%		93 2.2%		
(6) 地域ぐるみで子どもや保護者にはたらきかける仕組みを整えること	174 8.9%	174 7.5%		348 8.1%		
(7) フリースクールなどの民間施設との連携・協力を強めること	118 6.1%	215 9.2%		333 7.8%		
(8) その他	32 1.6%	43 1.8%		75 1.8%		
無回答・無効回答	4 0.2%	22 0.9%		26 0.6%		

(22) 教育に関して、行政(県や市町村)でこれから特に力を入れてほしいと思うことは何ですか(2つまで)

【概要】

○「教員がゆとりをもって子どもの相手ができるよう教員の数を増やすこと」、「教員の資質を向上させること」が比較的に多い回答となっている。

【一般県民と保護者の比較】

★傾向はほぼ同じであるが、「保護者の教育費の負担を少なくすること」について、保護者の回答率が高い。

	n=1,965	n=2,399	n=4,364
	【一般県民】	【保護者】	(参考) 【総計】
(1) 学校の施設や設備を整備すること	69 3.5%	132 5.5%	201 4.6%
○ (2) 教員の資質を向上させること	481 24.5%	495 20.6%	976 22.4%
○ (3) 教員がゆとりをもって子どもの相手ができるよう教員の数を増やすこと	460 23.4%	554 23.1%	1,014 23.2%
(4) 社会の変化やニーズに合わせて教育の内容を見直すこと	283 14.4%	309 12.9%	592 13.6%
(5) 学校と家庭や地域とのつながりを深めること	271 13.8%	218 9.1%	489 11.2%
(6) 学科・コースの新設などの魅力ある高校づくりを進めること	133 6.8%	177 7.4%	310 7.1%
★ (7) 保護者の教育費の負担を少なくすること	160 8.1%	362 15.1%	522 12.0%
(8) 高校入試の方法を見直すこと	82 4.2%	110 4.6%	192 4.4%
(9) その他	19 1.0%	28 1.2%	47 1.1%
無回答・無効回答	7 0.4%	14 0.6%	21 0.5%

Ⅲ 家庭や地域の教育の今とこれからについて

(23) 家庭が担うべき役割として特に大事なことは何だと思えますか。(2つまで)

【概要】

○「人を敬う気持ちや、他人への思いやり、いたわりの気持ちを生活の中で育てること」が3割を超え最も多く、次いで「早寝、早起き、朝ご飯などの基本的な生活習慣を定着させること」、「社会のルールや規範意識を身につけさせること」が多い回答となっている。

【一般県民と保護者の比較】 傾向はほぼ同じである。

	n=2,036	n=2,513	n=4,549
	【一般県民】	【保護者】	(参考) 【総計】
○ (1) 社会のルールや規範意識を身につけさせること	370 18.2%	483 19.2%	853 18.8%
○ (2) 早寝、早起き、朝ご飯などの基本的な生活習慣を定着させること	397 19.5%	463 18.4%	860 18.9%
(3) 家庭における学習習慣を定着させること	49 2.4%	72 2.9%	121 2.7%
(4) あいさつや望ましい態度、言葉遣いなどができるようにすること	266 13.1%	389 15.5%	655 14.4%
○ (5) 人を敬う気持ちや、他人への思いやり、いたわりの気持ちを生活の中で育てること	646 31.7%	802 31.9%	1,448 31.8%
(6) 自然体験などのさまざまな体験を経験させること	61 3.0%	66 2.6%	127 2.8%
(7) 自然や物を大切にすることを教えること	79 3.9%	91 3.6%	170 3.7%
(8) がまんすることを教えること	154 7.6%	131 5.2%	285 6.3%
(9) その他	10 0.5%	9 0.4%	19 0.4%
無回答・無効回答	4 0.2%	7 0.3%	11 0.2%

(24) 最近では家庭でのしつけや人格形成の教育が不足しているという見方がありますが、あなたはこのことについてどう思いますか。(1つ)

【概要】

○「全くそのとおりだと思う」又は「ある程度そう思う」との回答が約9割となっている。

【一般県民と保護者の比較】

傾向はほぼ同じであるが、一般県民では「全くそのとおりだと思う」の回答率が高く、保護者では「ある程度そう思う」の回答率が高い。

	n=1,034		n=1,293		n=2,327	
	【一般県民】		【保護者】		(参考)	【総計】
○★ (1) 全くそのとおりだと思う	480 46.4%		422 32.6%		902 38.8%	
○★ (2) ある程度そう思う	492 47.6%		722 55.8%		1,214 52.2%	
(3) あまりそう思わない	26 2.5%		74 5.7%		100 4.3%	
(4) 全くそう思わない	3 0.3%		8 0.6%		11 0.5%	
(5) どちらともいえない	27 2.6%		56 4.3%		83 3.6%	
無回答・無効回答	6 0.6%		11 0.9%		17 0.7%	

(25) [(24)で「1:」または「2:」と答えた方におたずねします。]家庭の教育力を低下させている原因は何だと思いますか。(2つまで)

【概要】

○「親子の対話不足」「親が仕事で忙しく子どもと過ごす時間が少ないなどの家庭の環境」が多い回答となっている。

【一般県民と保護者の比較】 傾向はほぼ同じである。

	n=1,853		n=2,114		n=3,967	
	【一般県民】		【保護者】		(参考)	【総計】
(1) 子どもの学業成績だけに目を向ける親の姿勢	228 12.3%		214 10.1%		442 11.1%	
○ (2) 親子の対話不足	351 18.9%		453 21.4%		804 20.3%	
○ (3) 親が仕事で忙しく子どもと過ごす時間が少ないなどの家庭の環境	309 16.7%		383 18.1%		692 17.4%	
(4) 学校や外部の教育機関に対するしつけの依存	263 14.2%		277 13.1%		540 13.6%	
(5) 子どものしつけや教育に自信をなくした親の増加	146 7.9%		154 7.3%		300 7.6%	
(6) テレビや雑誌などマスメディアの影響	173 9.3%		186 8.8%		359 9.0%	
(7) 家族内の相互無関心傾向	125 6.7%		143 6.8%		268 6.8%	
(8) 兄弟姉妹の間で励まし競い合う機会の不足	48 2.6%		42 2.0%		90 2.3%	
(9) 人を敬う気持ちや、他人への思いやり、いたわりが少ない地域社会の風潮	176 9.5%		221 10.5%		397 10.0%	
(10) その他	31 1.7%		38 1.8%		69 1.7%	
無回答・無効回答	3 0.2%		3 0.1%		6 0.2%	

(26) 家庭教育を充実させるためには、どのようなことが必要だと思いますか。(2つまで)

【概要】

○「親が仕事で忙しく子どもと過ごす時間が少ないなどの就労環境や家庭環境の改善」と「親の積極的な家庭教育への関与」が多い回答となっている。

【一般と保護者の比較】 傾向はほぼ同じである。

	n=1,909		n=2,221		n=4,130	
	【一般県民】		【保護者】		(参考)	【総計】
○ (1) 親の積極的な家庭教育への関与	432 22.6%		574 25.8%		1,006 24.4%	
(2) 子どもが体験活動を行う機会の提供	250 13.1%		299 13.5%		549 13.3%	
○ (3) 親が仕事で忙しく子どもと過ごす時間が少ないなどの就労環境や家庭環境の改善	465 24.4%		571 25.7%		1,036 25.1%	
(4) 家庭教育の重要性についての啓発	290 15.2%		286 12.9%		576 13.9%	
(5) 子どもや親同士が交流できる機会の提供	282 14.8%		243 10.9%		525 12.7%	
(6) 家庭教育に関する相談体制の充実	144 7.5%		179 8.1%		323 7.8%	
(7) その他	27 1.4%		37 1.7%		64 1.5%	
無回答・無効回答	19 1.0%		32 1.4%		51 1.2%	

(27) 地域社会が担うべき役割として大事だと思うことは何ですか。(2つまで)

【概要】

○「子どもたちの安全・安心を確保するための活動」が最も多い回答となっており、次に「子どもに礼儀やしつけをしっかりと教えること」、「自然体験や社会体験の場を提供すること」が多い回答となっている。

【一般県民と保護者の比較】

★傾向は同じであるが、「子どもたちの安全・安心を確保するための活動」については、保護者の回答率が高い。
また、「子どもに礼儀やしつけをしっかりと教えること」については、一般県民の回答率が高い。

		n=1,960	n=2,360	n=4,320
		【一般県民】	【保護者】	(参考) 【総計】
○★	(1) 子どもたちの安全・安心を確保するための活動	583 29.7%	886 37.5%	1,469 34.0%
	(2) 異なる世代との交流の推進	284 14.5%	308 13.1%	592 13.7%
	(3) 地域の優れた人材・企業等を活用した教育の推進	112 5.7%	142 6.0%	254 5.9%
○	(4) 自然体験や社会体験の場を提供すること	298 15.2%	318 13.5%	616 14.3%
	(5) 博物館や科学館を充実させて地域の歴史や自然誌、文化を学ぶ機会を増やすこと	39 2.0%	68 2.9%	107 2.5%
○★	(6) 子どもに礼儀やしつけをしっかりと教えること	347 17.7%	295 12.5%	642 14.9%
	(7) 学校の運営や行事などに、地域の住民や企業等が参画、協力すること	124 6.3%	120 5.1%	244 5.6%
	(8) スポーツ少年団や発明クラブの活動など、子どもの個性を伸ばす教育を推進すること	136 6.9%	177 7.5%	313 7.2%
	(9) その他	17 0.9%	17 0.7%	34 0.8%
	無回答・無効回答	20 1.0%	29 1.2%	49 1.1%

(28) 地域社会の教育的活動を活性化するためにはどのようなことが必要だと思いますか。(2つまで)

【概要】

○「子育てや教育活動などに必要な時間が確実に取得できる就労環境の整備」が3割を超え最も多く、次いで「年齢や子どもの有無に関わらず、子育てや教育に参加できるイベントなどの活動を増やすこと」が多い回答となっている。

【一般県民と保護者の比較】

★傾向はほぼ同じであるが、「子育てや教育活動などに必要な時間が確実に取得できる就労環境の整備」については、保護者の回答率が高い。

		n=1,832	n=2,110	n=3,942
		【一般県民】	【保護者】	(参考) 【総計】
○★	(1) 子育てや教育活動などに必要な時間が確実に取得できる就労環境の整備	501 27.3%	719 34.1%	1,220 30.9%
○	(2) 年齢や子どもの有無に関わらず、子育てや教育に参加できるイベントなどの活動を増やすこと	377 20.6%	439 20.8%	816 20.7%
	(3) 町内会活動、子ども会活動の活発化	261 14.2%	224 10.6%	485 12.3%
	(4) 行政や学校から地域住民に地域社会で取り組む教育活動の重要性をアピールすること	211 11.5%	226 10.7%	437 11.1%
	(5) 地域社会のリーダー役となる人材の育成	158 8.6%	130 6.2%	288 7.3%
	(6) 地域社会の教育的活動を受け入れる学校の体制整備	264 14.4%	280 13.3%	544 13.8%
	(7) その他	30 1.6%	44 2.1%	74 1.9%
	無回答・無効回答	30 1.6%	48 2.3%	78 2.0%

(29) あなたが、地域社会で教育的活動を実践するとしたら、どのようなものに携わっていきたいと思いますか。(2つまで)

【概要】

○「保護者としてPTA活動に参加」「通学路清掃、防犯パトロール等のボランティア活動」が多い回答となっている。

【一般県民と保護者の比較】

★「保護者としてPTA活動に参加」については、保護者の回答率が高い。

一方、一般県民では、「通学路清掃、防犯パトロール等のボランティア活動」「放課後や休日などにおける地域の子どもの活動の世話役」の回答率が高い。

		n=1,774	n=2,091	n=3,865
		【一般県民】	【保護者】	(参考) 【総計】
○★	(1) 保護者としてPTA活動に参加	273 15.4%	630 30.1%	903 23.4%
	(2) 子ども会や町内会活動の世話役	296 16.7%	350 16.7%	646 16.7%
	(3) 学校の体験活動の場所を提供したり、経験を生かした講演活動など	164 9.2%	138 6.6%	302 7.8%
★	(4) 放課後や休日などにおける地域の子どもの活動の世話役	268 15.1%	207 9.9%	475 12.3%
	(5) スポーツの指導や地域の伝統文化に関する活動	181 10.2%	165 7.9%	346 9.0%
○★	(6) 通学路清掃、防犯パトロール等のボランティア活動	462 26.0%	441 21.1%	903 23.4%
	(7) 関わりたくない	47 2.6%	80 3.8%	127 3.3%
	(8) その他	57 3.2%	43 2.1%	100 2.6%
	無回答・無効回答	26 1.5%	37 1.8%	63 1.6%

(30) 核家族化などの社会の変化から、子育てに関する悩みを持つ家庭が増えているといわれていますが、安心した子育てにはどのようなことが必要だと思いますか。(2つまで)

【概要】

○「遊び場や児童館など、安心して子どもが集える場の整備」、「幼稚園や保育園の延長保育や、学童保育の充実」、「仕事をもつ保護者への企業の理解と協力をすすめる取組」が比較的に多い回答となっている。

【一般県民と保護者の比較】

★傾向はほぼ同じであるが、「親子や高齢者などが世代を超えて気軽にふれあう場や機会の提供」について、一般県民の回答率が高い。

		n=1,965	n=2,393	n=4,358
		【一般県民】	【保護者】	(参考) 【総計】
○	(1) 幼稚園や保育園の延長保育や、学童保育の充実	327 16.6%	431 18.0%	758 17.4%
○	(2) 遊び場や児童館など、安心して子どもが集える場の整備	361 18.4%	556 23.2%	917 21.0%
★	(3) 親子や高齢者などが世代を超えて気軽にふれあう場や機会の提供	330 16.8%	248 10.4%	578 13.3%
○	(4) 仕事をもつ保護者への企業の理解と協力をすすめる取組	319 16.2%	409 17.1%	728 16.7%
	(5) 気軽に相談できる窓口（役所やNPOなど）の設置	120 6.1%	127 5.3%	247 5.7%
	(6) 子育てに関する豊富な情報の提供	115 5.9%	130 5.4%	245 5.6%
	(7) 非行防止や、青少年に有害な図書の回収など社会環境浄化活動の強化	80 4.1%	56 2.3%	136 3.1%
	(8) 乳幼児医療費や保育料などへの経済的支援の充実	192 9.8%	308 12.9%	500 11.5%
	(9) 青少年活動や子育てグループ活動を支援する人材の育成	90 4.6%	77 3.2%	167 3.8%
	(10) その他	10 0.5%	18 0.8%	28 0.6%
	無回答・無効回答	21 1.1%	33 1.4%	54 1.2%

(31) 宮城県で取り組んでいる、「はやね・はやおき・あさごはん」推奨運動(子どもの基本的な生活習慣を定着させるための様々な広報・啓発活動)について知っていますか。(1つ)

【概要】

○ほとんどの方が「運動の内容をよく知っており、大切なことだと思う」又は「運動の内容をよく知らないが、大切なことだと思う」と回答している。

【一般県民と保護者の比較】

★一般県民は「運動の内容をよく知らないが、大切なことだと思う」の回答率が高い。
一方、保護者は「運動の内容をよく知っており、大切なことだと思う」の回答率が高い。

		n=1,034	n=1,293	n=2,327
		【一般県民】	【保護者】	(参考) 【総計】
○★	(1) 運動の内容をよく知っており、大切なことだと思う	373 36.1%	653 50.5%	1,026 44.1%
○★	(2) 運動の内容をよく知らないが、大切なことだと思う	603 58.3%	577 44.6%	1,180 50.7%
	(3) 運動の内容を知っているが、あまり大切なこととは思わない	14 1.4%	21 1.6%	35 1.5%
	(4) 運動の内容を知らないし、あまり大切なこととは思わない	14 1.4%	7 0.5%	21 0.9%
	(5) その他	13 1.3%	9 0.7%	22 0.9%
	無回答・無効回答	17 1.6%	26 2.0%	43 1.8%

(32) 「はやね・はやおき・あさごはん」推奨運動の進め方について、あなたの考えに最も近いものは何ですか。(2つまで)

【概要】

○「企業は、子どもを持つ社員が運動を実践しやすい就労環境づくりに取り組むべきである」「学校が中心となって、家庭に指導をするなど積極的に進めるべきである」が多い回答となっている。

【一般県民と保護者の比較】

★傾向はほぼ同じであるが、「地域の自治会などが中心となって、家庭に呼びかけるなどして進めるべきである」の一般県民の回答率が高い。

一方、保護者では「今のままでよい」の回答率が高い。

		n=1,714	n=1,943	n=3,657
		【一般県民】	【保護者】	(参考) 【総計】
	(1) 県と企業が協力してキャッチフレーズを流すなどの取り組みを進めるべきである	253 14.8%	307 15.8%	560 15.3%
○	(2) 企業は、子どもを持つ社員が運動を実践しやすい就労環境づくりに取り組むべきである	346 20.2%	386 19.9%	732 20.0%
	(3) 県が主体となってイベントなどをもっと開催するべきである	235 13.7%	290 14.9%	525 14.4%
○	(4) 学校が中心となって、家庭に指導をするなど積極的に進めるべきである	337 19.7%	337 17.3%	674 18.4%
★	(5) 地域の自治会などが中心となって、家庭に呼びかけるなどして進めるべきである	209 12.2%	104 5.4%	313 8.6%
★	(6) 今のままでよい	73 4.3%	205 10.6%	278 7.6%
	(7) 各家庭の事情もあるので、家庭に任せることであり、おしつけるべきではない	201 11.7%	232 11.9%	433 11.8%
	(8) その他	40 2.3%	45 2.3%	85 2.3%
	無回答・無効回答	20 1.2%	37 1.9%	57 1.6%

IV 生涯学習やスポーツ、文化芸術に関することについて

(33) あなたは、どのような活動をしていますか。また、活動したいと思っていますか。(2つまで)

【概要】

○「スポーツやレクリエーションなど体を動かす活動」「子ども会や町内会などの住んでいる地域で行う活動」が多い回答となっている。

【一般県民と保護者の比較】 傾向はほぼ同じである。

	n=1,807	n=2,157	n=3,964
	【一般県民】	【保護者】	(参考) 【総計】
(1) 伝統芸能や絵画、音楽などの鑑賞	230 12.7%	299 13.9%	529 13.3%
○ (2) スポーツやレクリエーションなど体を動かす活動	415 23.0%	481 22.3%	896 22.6%
(3) 大学の公開講座や県民講座など自分の教養を高める一般向けの教室などへの参加	95 5.3%	106 4.9%	201 5.1%
(4) 趣味のサークル活動	300 16.6%	275 12.7%	575 14.5%
(5) ボランティア活動	209 11.6%	181 8.4%	390 9.8%
○ (6) 子ども会や町内会などの住んでいる地域で行う活動	302 16.7%	438 20.3%	740 18.7%
(7) 資格取得など職業能力の向上となる、高度な知識や技術の習得	149 8.2%	250 11.6%	399 10.1%
(8) 大学の社会人入学制度などを利用したキャリアアップ	22 1.2%	33 1.5%	55 1.4%
(9) その他	53 2.9%	50 2.3%	103 2.6%
無回答・無効回答	32 1.8%	44 2.0%	76 1.9%

(34) あなたの住んでいる地域で、生涯学習やスポーツ、文化芸術の活動を充実させるためにはどのようなことが必要だと思いますか。(2つまで)

【概要】

○「地域での交流、仲間づくり」が2割を超え最も多く、次いで「放課後の学校や公民館、体育館、広場などの活動拠点の充実」が多い回答となっている。

【一般県民と保護者の比較】

★傾向はほぼ同じであるが、「地域での交流、仲間づくり」について、一般県民の回答率が高い。

	n=1,827	n=2,115	n=3,942
	【一般県民】	【保護者】	(参考) 【総計】
○★ (1) 地域での交流、仲間づくり	523 28.6%	482 22.8%	1,005 25.5%
(2) スポーツクラブやサークルなどの活動団体の設置	243 13.3%	332 15.7%	575 14.6%
(3) 身近な指導者や世話人についての情報提供	234 12.8%	221 10.4%	455 11.5%
(4) 活動を発表できる機会の増加	108 5.9%	120 5.7%	228 5.8%
○ (5) 放課後の学校や公民館、体育館、広場などの活動拠点の充実	255 14.0%	384 18.2%	639 16.2%
(6) 図書館や博物館などの整備	108 5.9%	209 9.9%	317 8.0%
(7) 大学や自治体などが主催の公開講座や各種教室の充実	102 5.6%	97 4.6%	199 5.0%
(8) 講演会、演奏会、展示会など鑑賞機会の充実	190 10.4%	179 8.5%	369 9.4%
(9) その他	32 1.8%	42 2.0%	74 1.9%
無回答・無効回答	32 1.8%	49 2.3%	81 2.1%

(35) 宮城県には、県立大学や東北大学など、たくさんの高等教育機関があり、開かれた教育の場として公開講座や出前教室等が行われ、県民が受講・参加することができますが、そのことを知っていますか。(1つ)

【概要】

○「知らなかったが、受講・参加してみたい」が4割を超え、最も多く、次いで「知っており、受講・参加したいと思っている」が多い回答となっている。

【一般県民と保護者の比較】傾向はほぼ同じである。

	n=1,034	n=1,293	n=2,327
	【一般県民】	【保護者】	(参考) 【総計】
(1) 受講・参加したことがある	57 5.5%	60 4.6%	117 5.0%
(2) 知っており、受講・参加したいと思っている	231 22.3%	262 20.3%	493 21.2%
○ (3) 知らなかったが、受講・参加してみたい	405 39.2%	537 41.5%	942 40.5%
(4) 知っていたが、受講・参加したいと思わない	115 11.1%	137 10.6%	252 10.8%
(5) 知らなかったし、受講参加したいと思わない	148 14.3%	227 17.6%	375 16.1%
(6) その他	52 5.0%	36 2.8%	88 3.8%
無回答・無効回答	26 2.5%	34 2.6%	60 2.6%

V 地域の特徴を生かした教育について

(36) 自然・文化・歴史などの地域の特性や、県内の高等教育機関を生かした教育を宮城で行うとしたら、どのようなものが考えられますか。(自由記述)

	n=1,034	n=1,293	n=2,327
	【一般県民】	【保護者】	【総計(参考)】
(1) 記述有り	296 28.6%	180 13.9%	476 20.5%
無回答・無効回答	738 71.4%	1,113 86.1%	1,851 79.5%

VI その他

(37) その他、教育に関してご意見等がありましたら記入願います。(自由記述)

	n=1,034	n=1,293	n=2,327
	【一般県民】	【保護者】	(参考) 【総計】
(1) 記述有り	355 34.3%	230 17.8%	585 25.1%
無回答・無効回答	679 65.7%	1,063 82.2%	1,742 74.9%

F 回答者の属性など

(38) 性別

	n=1,034	n=1,293	n=2,327
	【一般県民】	【保護者】	(参考) 【総計】
(1) 男	408 39.5%	170 13.1%	578 24.8%
(2) 女	602 58.2%	1,098 84.9%	1,700 73.1%
無回答・無効回答	24 2.3%	25 1.9%	49 2.1%

(39) 現在の年齢

	n=1,034	n=1,293	n=2,327
	【一般県民】	【保護者】	(参考) 【総計】
(1) 20～29歳	69 6.7%	73 5.6%	142 6.1%
(2) 30～39歳	155 15.0%	465 36.0%	620 26.6%
(3) 40～49歳	204 19.7%	602 46.6%	806 34.6%
(4) 50～59歳	312 30.2%	113 8.7%	425 18.3%
(5) 60～69歳	247 23.9%	6 0.5%	253 10.9%
(6) 70歳以上	18 1.7%	1 0.1%	19 0.8%
無回答・無効回答	29 2.8%	33 2.6%	62 2.7%

(40) お住まいの地区

	n=1,034	n=1,293	n=2,327
	【一般県民】	【保護者】	(参考) 【総計】
(1) 仙台地区	138 13.3%	431 33.3%	569 24.5%
(2) 仙台市地区	122 11.8%	142 11.0%	264 11.3%
(3) 仙南地区	117 11.3%	274 21.2%	391 16.8%
(4) 大崎地区	122 11.8%	66 5.1%	188 8.1%
(5) 栗原地区	118 11.4%	89 6.9%	207 8.9%
(6) 登米地区	129 12.5%	42 3.2%	171 7.3%
(7) 石巻地区	122 11.8%	182 14.1%	304 13.1%
(8) 気仙沼・本吉地区	131 12.7%	28 2.2%	159 6.8%
無回答・無効回答	35 3.4%	39 3.0%	74 3.2%

(41) ご職業

	n=1,034	n=1,293	n=2,327
	【一般県民】	【保護者】	(参考) 【総計】
(1) 農林漁業	78 7.5%	10 0.8%	88 3.8%
(2) 会社、工場、商店等の勤め人（パート、アルバイト等を除く）	227 22.0%	269 20.8%	496 21.3%
(3) 公務員、教職員、団体職員	111 10.7%	136 10.5%	247 10.6%
(4) 会社、工場、商店等の経営	83 8.0%	69 5.3%	152 6.5%
(5) 弁護士、医者、作家などの専門的職業	19 1.8%	53 4.1%	72 3.1%
(6) 家事専業	192 18.6%	233 18.0%	425 18.3%
(7) 家事兼業（パート、アルバイト等）	148 14.3%	408 31.6%	556 23.9%
(8) その他の職業	65 6.3%	57 4.4%	122 5.2%
(9) 学生	11 1.1%	2 0.2%	13 0.6%
(10) 職についていない人	66 6.4%	18 1.4%	84 3.6%
無回答・無効回答	34 3.3%	38 2.9%	72 3.1%

(42) 就職していない子どもの有無

	n=1,034	n=1,293	n=2,327
	【一般県民】	【保護者】	(参考) 【総計】
(1) 無	548 53.0%	0 0.2%	548 23.5%
(2) 有	447 43.2%	1,291 99.7%	1,738 74.7%
無回答・無効回答	39 3.8%	2 0.2%	41 1.8%

(43) [(42)で「2:有」と答えた方におたずねします。]

	n=649	n=2,695	n=3,344
	【一般県民】	【保護者】	(参考) 【総計】
(1) 乳幼児	50 7.7%	81 3.0%	131 3.9%
(2) 保育所・保育園	39 6.0%	135 5.0%	174 5.2%
(3) 幼稚園	39 6.0%	193 7.2%	232 6.9%
(4) 小学生	144 22.2%	699 25.9%	843 25.2%
(5) 中学生	88 13.6%	489 18.1%	577 17.3%
(6) 高校生	113 17.4%	426 15.7%	539 16.1%
(7) 大学生・大学院生	88 13.6%	90 3.3%	178 5.3%
(8) 専門学校生、各種学校生	22 3.4%	14 0.5%	36 1.1%
(9) 受験準備等	3 0.5%	3 0.1%	6 0.2%
(10) その他、家事手伝いなど	57 8.8%	11 0.4%	68 2.0%
無回答・無効回答	6 0.9%	556 20.6%	562 16.8%